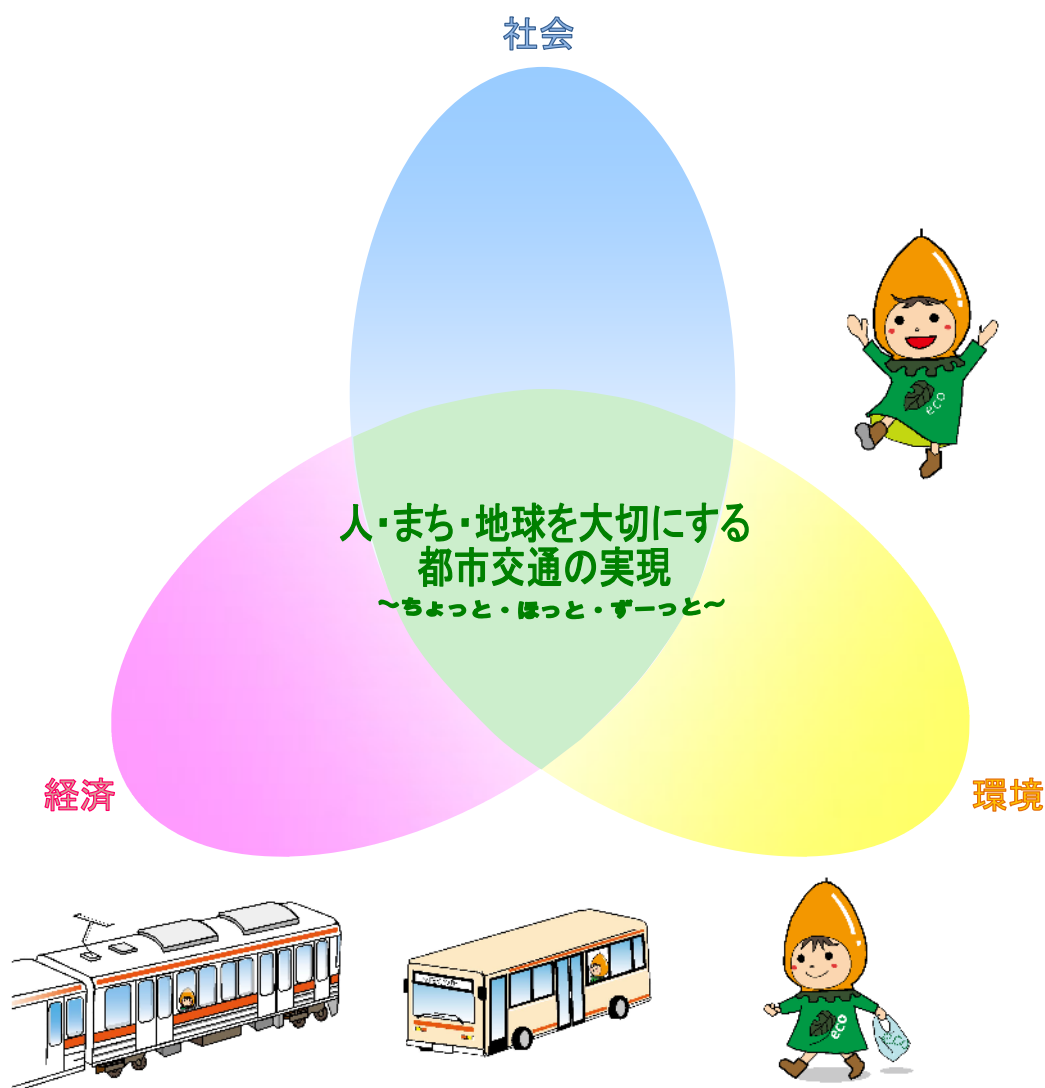

幸田町 都市交通マスタープラン



平成22年3月
愛知県 幸田町

目 次

1. 計画の目的と位置づけ.....	1-1
1-1. 都市交通マスタープラン策定の趣旨.....	1-1
1-2. 都市交通マスタープランの位置づけ.....	1-2
1-3. 目標年次.....	1-3
1-4. 都市交通マスタープラン策定の体制.....	1-3
2. 上位計画の整理.....	2-1
3. 都市及び都市交通の特性の整理.....	3-1
3-1. 幸田町の現況.....	3-1
3-1-1. 幸田町の概況.....	3-1
3-1-2. 人口動向.....	3-5
3-1-3. 土地利用動向.....	3-13
3-1-4. 施設分布状況.....	3-22
3-1-5. 産業動向.....	3-28
3-2. 幸田町の交通概況.....	3-37
3-2-1. 道路交通.....	3-37
3-2-2. 公共交通.....	3-61
3-2-3. 交通結節点等の整備状況.....	3-79
3-2-4. 交通特性.....	3-87
4. 都市交通にかかる住民アンケートの集計・解析.....	4-1
4-1. 住民アンケート調査の結果.....	4-1
4-2. 企業ヒアリング調査の結果.....	4-50
4-3. 既往の企業アンケート調査の結果.....	4-58
5. 都市交通課題の整理.....	5-1
5-1. 幸田町の都市及び都市交通に関する特性.....	5-1
5-2. 幸田町の都市交通に関する課題.....	5-4

6. 都市交通の基本方針の検討.....	6-1
6-1. 基本理念及び目標の設定.....	6-1
6-2. 基本方針の策定.....	6-8
7. 都市交通施策の検討.....	7-1
7-1. 交通施策の立案.....	7-1
7-2. 自動車交通施策.....	7-3
7-3. 公共交通施策.....	7-21
7-4. 歩行者・自転車施策.....	7-31
7-5. 共通施策.....	7-43
8. 施策の推進方策の検討.....	8-1
8-1. 計画推進の体制と方策.....	8-1

用語集

1. 計画の目的と位置づけ

1-1. 都市交通マスタープラン策定の趣旨

都市交通マスタープラン（以下「本計画」）は、幸田町の都市交通のあり方について長期的な視点から目標を掲げ、個別の課題に対する施策とその推進方策を示すものです。

本計画策定の背景と趣旨は以下の通りです。

【背 景】

■幸田町を取り巻く交通体系は大きく変わりつつあります

- 名古屋と豊橋を結ぶ名豊道路（23号バイパス）が幸田芦谷ICまで開通し、引き続き豊橋方面に向け整備が進められています。
- 新東名高速道路も平成26年度開通を目処に整備が進められています。
- JR東海道本線の幸田駅－岡崎間に新駅を設置することでJR東海と基本協定を締結し、平成24年3月の開業を目指して準備を進めています。

■都市交通を取り巻く社会情勢の変化への対応が求められています

①人口減少・超高齢社会への対応

人口減少・超高齢化の進展に伴い、これまで以上にだれもが円滑に移動できる手段の確保が重要になっています。

②地球環境への負荷軽減

地球温暖化など世界規模での環境問題に対応するため、自動車交通への過度の依存から脱却し、公共交通機関の利用促進やまちの機能を出来るだけ集約したコンパクトなまちづくりなどの施策が求められています。

まちづくりの観点から地球環境問題に対応するためには、都市交通施策によるアプローチが効果的です。

③財政的制約の高まり

人口減少・超高齢化の進展により投資余力の低下が予想される中で、一層財政的制約が高まると考えられ、今後は社会情勢への対応と共に町民のニーズを的確に把握し、より効率的かつ効果的な施設整備が求められています。



【趣 旨】

町を取り巻く交通体系の変化、社会情勢の変化等の諸課題の解決への取り組みと、快適な暮らしの実現の両立を図るという観点から、まちづくりと都市交通が一体となった施策が必要であり、町では、「幸田町都市計画マスタープラン」における交通計画をより細かく検討を行い、将来の基本目標と取り組むべき施策を整理して、「幸田町都市交通マスタープラン」（以下「本計画」）として策定します。

1-2. 都市交通マスタープランの位置づけ

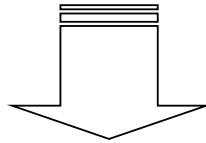
幸田町都市交通マスタープランは、総合計画、都市計画マスタープラン交通計画部門を詳述するものであり、下記の通り位置付けられます。

上位計画で定められた基本目標、基本方針を受け継ぎ、個別の都市交通課題に対する施策とその推進方策を具体化していく計画です。

第 5 次幸田町総合計画（H18.3 策定）

（地方自治法第 2 条第 4 項）

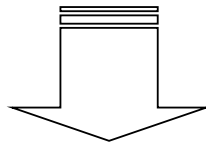
まちづくりの基本理念や将来都市像、目指すべき施策の方向性を明らかにし、施策実現のための方針を示すものです。



幸田町都市計画マスタープラン（H20～H21 策定）

（都市計画法第 18 条の 2）

総合計画を踏まえ、市民の意見を反映して、土地利用、都市交通、市街地整備等の都市計画の長期的な将来像を明らかにするとともに、その実現に向けた基本方針を定めるものです。



幸田町都市交通マスタープラン（H20～H21 策定）

総合計画、都市計画マスタープランの都市交通部門を詳述するものであり、個別の都市交通課題に対する施策とその推進方策を示すものです。

1-3. 目標年次

計画の目標年次は平成 42 年とし、平成 32 年を中間年次とします。

1-4. 都市交通マスタープラン策定の体制

幸田町都市交通マスタープランの策定にあたっては、以下の体制で策定します。

都市交通に関する学識経験者や各種団体、関係行政機関などの都市交通関係者が参画する協議会において、地域の交通の課題や地域づくりの目標を共有し、連携・協議を図りながら、より実効性の高い計画づくりを進めていきます。

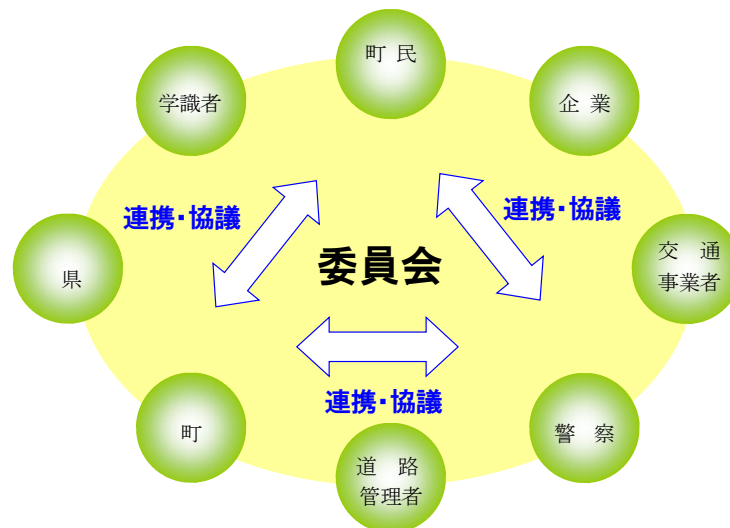


図 都市交通マスタープラン策定の体制

2. 上位計画の整理

2-1. 上位計画

(1) 第5次幸田町総合計画（平成18年3月策定）

本町は、人と自然を大切にする緑住文化都市、5万人都市を目指しています。

① 将来人口

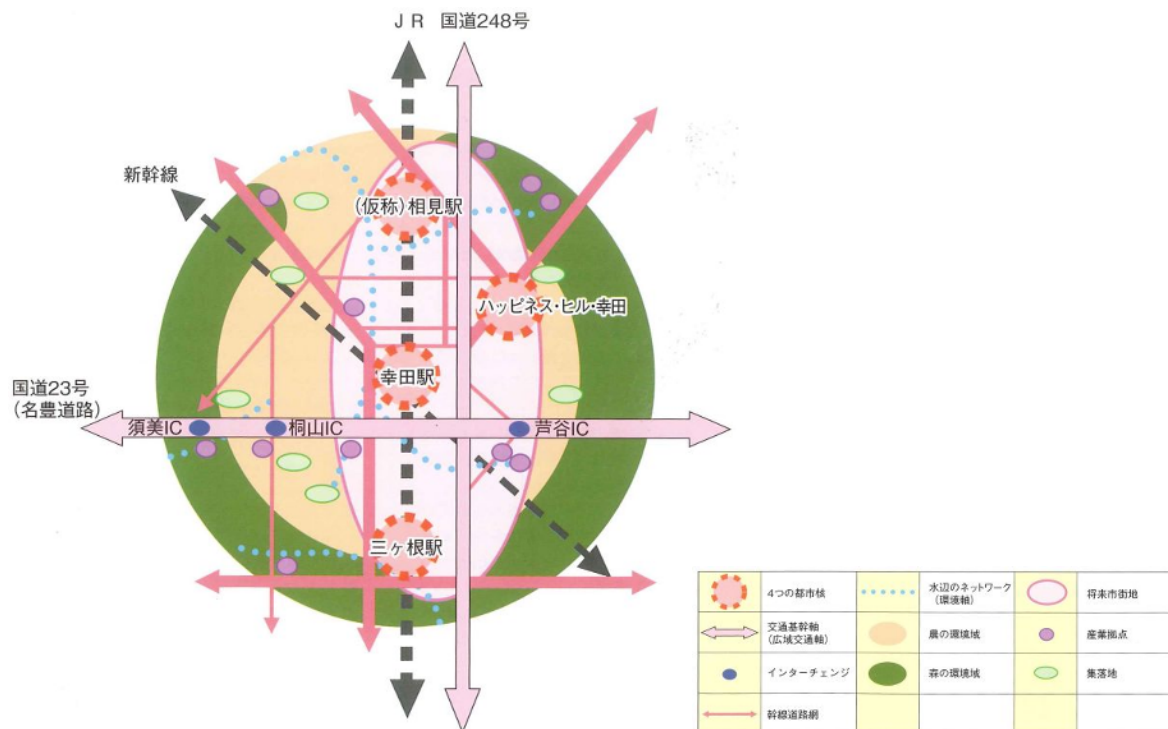
平成27年度までに4万人を見込み、5万人規模を展望した都市づくり

② 将来像

人と自然を大切にする緑住文化都市

③ 土地利用計画

都市づくりの骨格		対象地区や路線
都市づくりの骨格	・4つの都市核（3駅プラス1）	・幸田駅周辺 ・三ヶ根駅周辺 ・（仮称）相見駅周辺 ・ハッピネス・ヒル・幸田周辺
2つの交通軸とネットワーク（クロス＆ネット）	・2つの交通軸	・国道248号、名豊道路
	・都市交通網	・都市幹線 ・地区幹線
自然環境の保全と再生のための骨格	・環境軸としての水辺のネットワーク ・農の環境域 ・森の環境域	・3つの水系 ・集落地周辺の農地 ・町の周辺部に広がる森林



■将来都市像

④ 交通関連施策

施策の体系		主要施策の具体的内容
道 路 網 の整備	1. 幹線道路の整備	・国道 23 号（名豊道路）の整備促進と道の駅の設置 ・国道 23 号関連道路（都市計画道路上六栗線、芦谷線）の整備促進 ・都市計画道路生平幸田線の早期事業化 ・都市計画道路野場横落線・岩堀線などの整備促進 ・名古屋三河道路や名浜道路などの地域高規格道路の整備促進
	2. 生活関連道路の整備	・国県道との連絡、地域コミュニティおよび生産活動を考慮した道路整備の推進 ・自転車・歩行者のための交通安全施設整備 ・集落内道路の改良・舗装・側溝整備
	3. 特色ある道路の整備	・シンボル性のある道路や歩車共存道路の整備の検討
	4. 安全と環境対策	・歩行者空間の見直しや予想される地震規模に備えた橋梁の補強 ・道路の清掃や樹木の管理など、地域住民の参加による維持管理 ・交通量の円滑化、道路構造・沿道環境の整備など、交通公害対策の総合的な推進
公 共 交 通 の 整 備	1. 鉄道機能の整備・充実	・幸田駅および三ヶ根駅周辺の環境整備 ・（仮称）相見駅の設置促進
	2. 町営福祉巡回バスの効率的な運行	・公共公益施設と鉄道駅間の連絡機能を高めるべく、より効率的な福祉巡回バスの運行
	3. バス交通の充実	・バス路線網の整備拡充および鉄道との連絡強化 ・交通弱者に配慮したバス停整備



■ 幸田駅前将来イメージ図



■（仮称）相見駅前将来イメージ図

(2) 都市計画マスタープラン

■ 目標年次

計画の目標年次は平成 42 年とし、平成 32 年を中間年次とします。

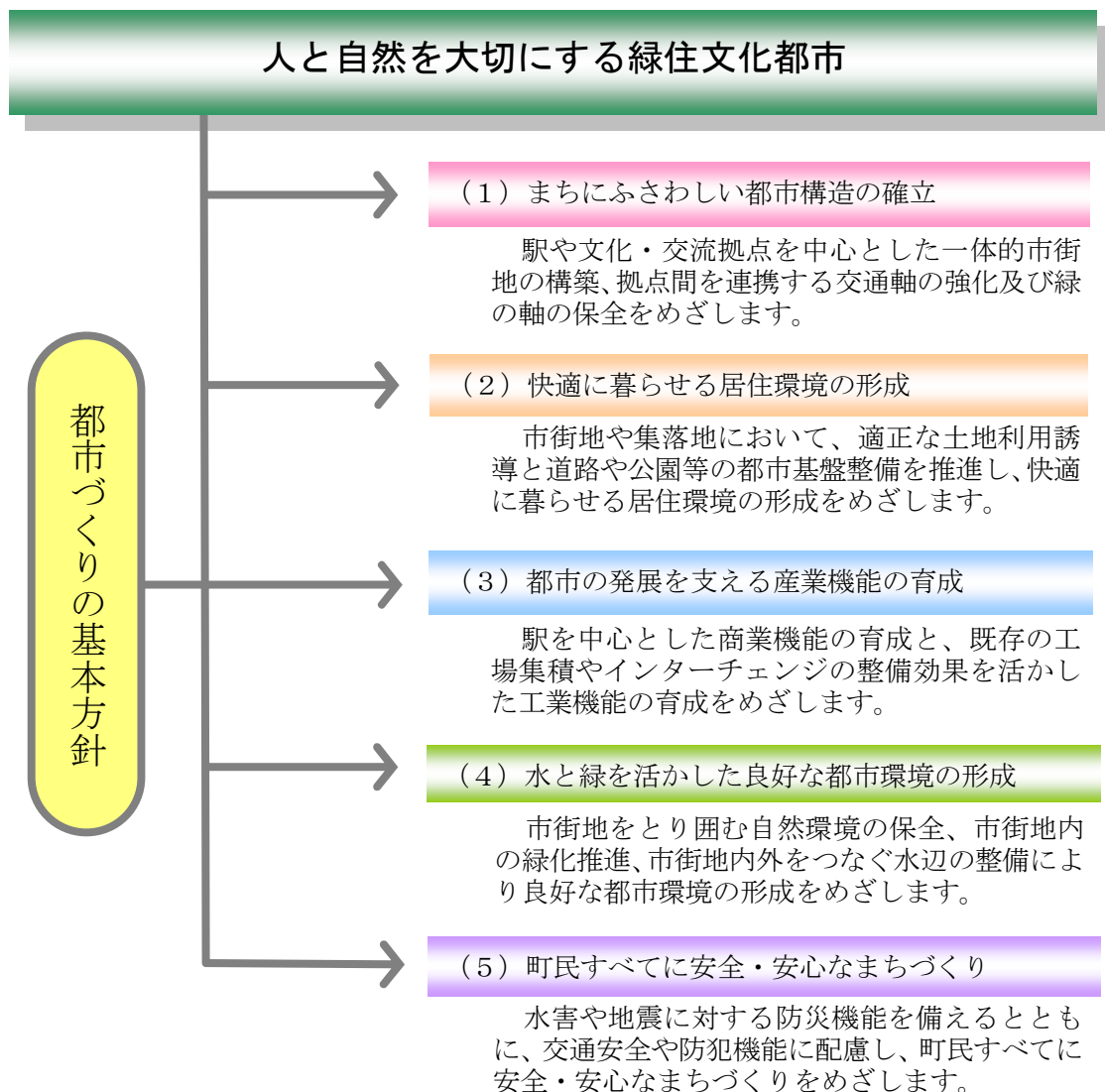
■ 将来都市像

「人と自然を大切にする緑住文化都市」

■ 都市づくりの基本的方向

都市づくりの課題及び都市づくりの理念（将来都市像）を踏まえて、以下のように 5 つの都市づくりの基本方針を設定します。

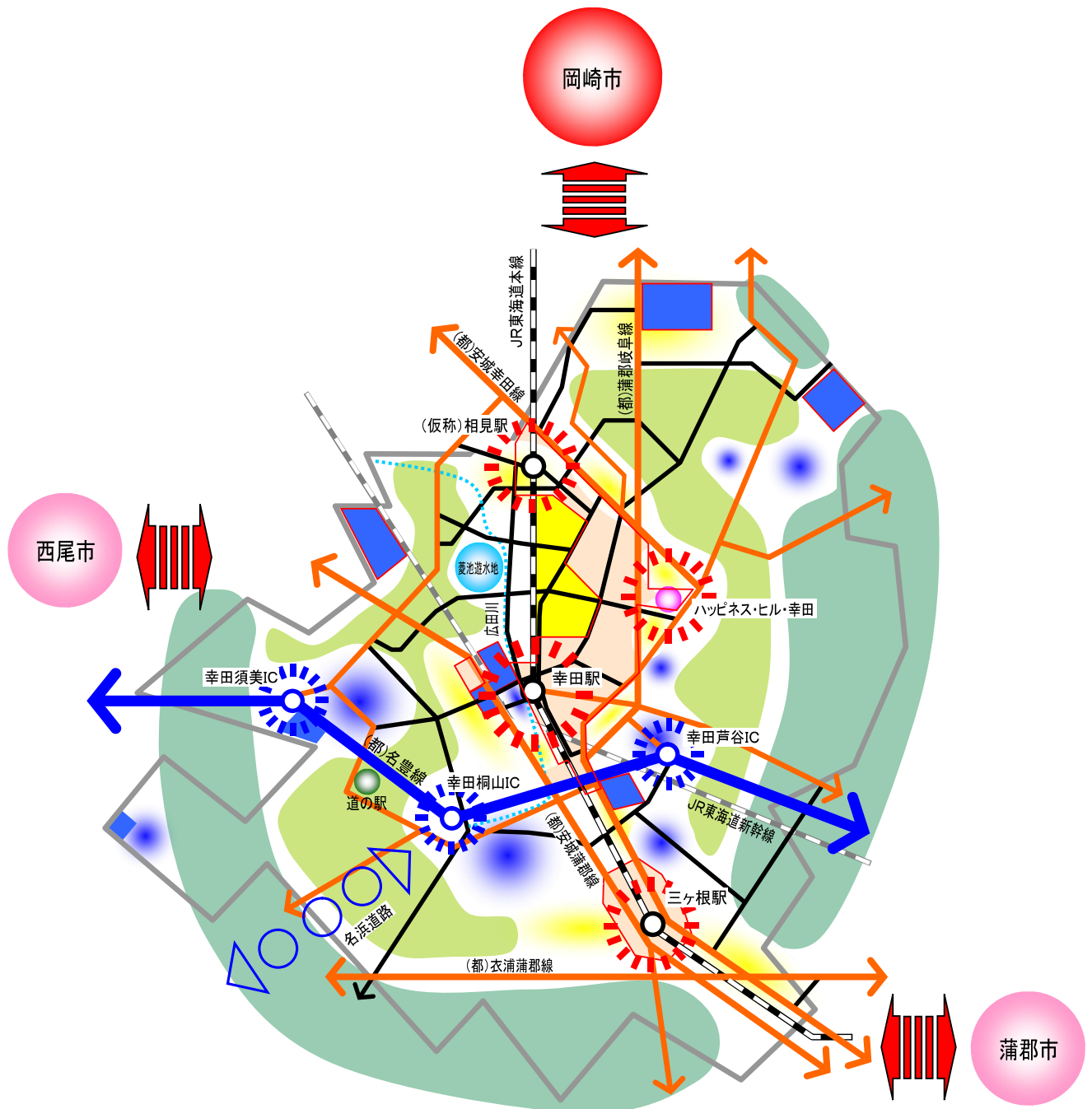
【将来都市像】



■ 都市づくりの基本方針

■将来フレーム

年 次	平成 17 年 (2005)	平成 32 年 (2020)	平成 42 年 (2030)
人口フレーム (人)	35,596	42,100	46,400
住居系土地需要 (ha)	—	67	138
商業系土地需要 (ha)	—	12	17
工業系土地需要 (ha)	—	110	168



凡 例			
	都市拠点		骨格となる緑（森林、農地、河川）
	インターチェンジ拠点		既成市街地
	広域交通軸（地域高規格道路・IC）		既存工業団地
	広域交通軸（鉄道・駅）		現行市街化区域界
	幹線交通軸		新市街地（住宅用地等）
	拠点連携軸		拡大市街地（工業用地）

■将来都市構造図

3. 都市及び都市交通の特性の整理

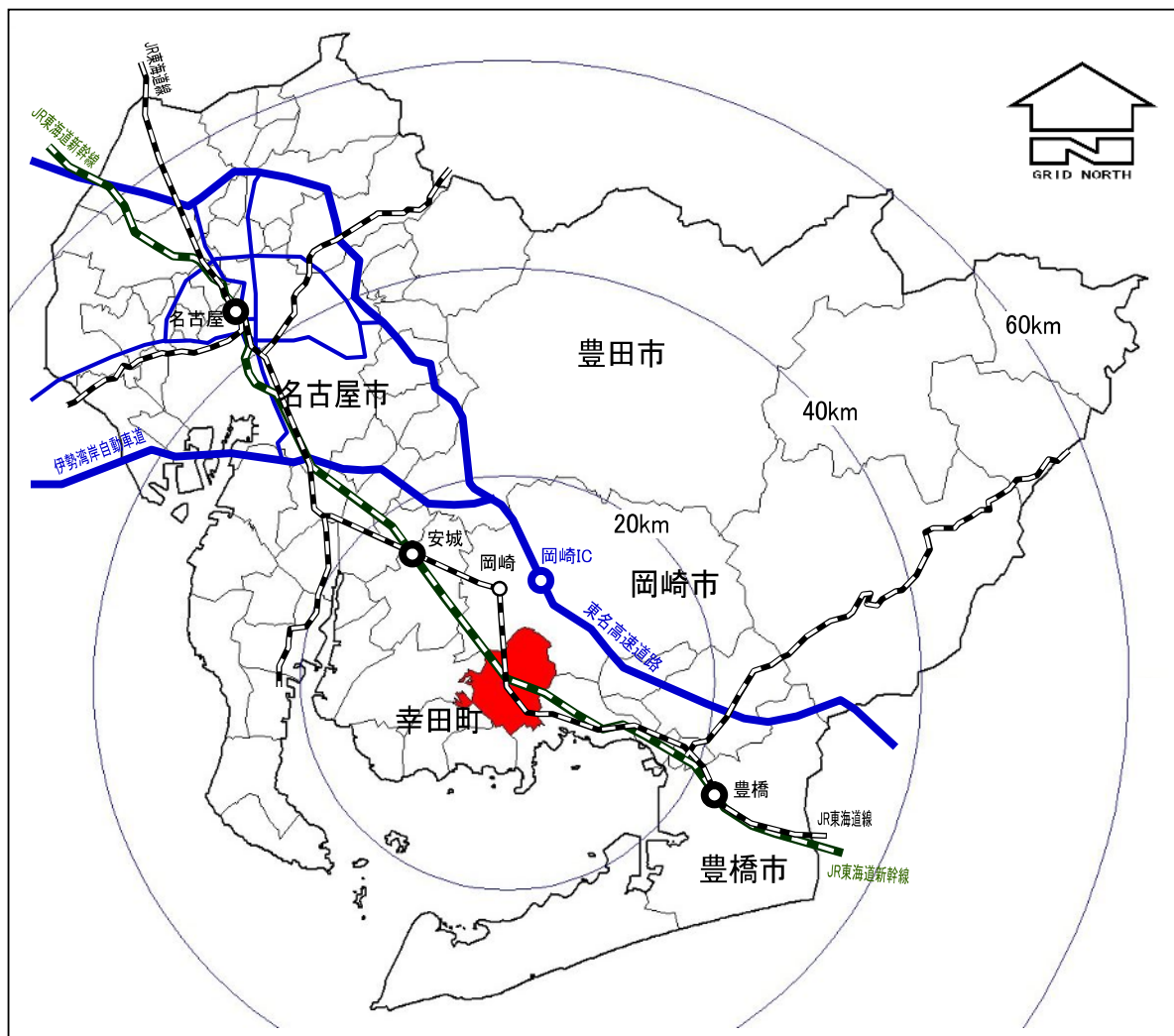
3-1. 幸田町の現況

3-1-1. 幸田町の概況

(1) 位置

幸田町は愛知県の中央南部にあり、中京経済圏の中心都市名古屋市から約 45km、東三河の中核都市である豊橋市から約 30km に位置し、自動車関連企業が多く集積する産業都市であり、また温暖な気候と緑豊かな自然に恵まれた美しいまちでもあります。

交通体系では、J R 東海道本線が町中央を走り、国道 23 号名豊道路や国道 248 号の広域的なアクセス道路が整備され交通の要衝となっています。さらに、新東名高速道路、名豊道路、名浜道路、名古屋三河道路などの国土幹線道路や地域高規格道路が整備される計画であり、今後も物的・人的輸送における交通の要衝を担っていきます。



■広域的な位置図

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(2) 地勢

本町の地形は、東部の遠望峰山（標高 439m）、南部の三ヶ根山（標高 325.7m）を中心とする山地並びにこれらの谷間を流れる一級河川広田川、二級河川拾石川沿いの丘陵地並びに一級河川広田川下流域の低地に大別されます。

地質は、山地が主として変成岩、丘陵地は洪積層、低地は沖積層で構成されます。



■航空写真（ESRI ArcGIS Online）

(3) 交通施設整備の歴史

幸田町における交通施設にかかる主な出来事は以下のとおりです。

鉄道施設については、国鉄東海道本線（現ＪＲ東海道本線）が明治 22 年に開業し、明治 41 年に幸田駅、昭和 42 年に三ヶ根駅がそれぞれ開業しました。

近年では、平成 20 年に幸田駅のバリアフリー化の整備が行われ、平成 20 年 10 月 17 日には、岡崎駅－幸田駅間の新駅設置について、ＪＲ 東海と基本協定を締結し、開業に向けて整備が進められています。

道路施設については、昭和 44 年に国道 248 号線バイパスが町内全線開通し、その後、全線 4 車線化が完成しました。

近年では、平成 19 年末に国道 23 号名豊道路（岡崎バイパス）が幸田芦谷 IC まで開通し、名古屋までのアクセス性が向上しました。また、平成 8 年には、町内各施設間を結ぶ町民の足として、町福祉巡回バスを導入しています。

■幸田の交通施設整備の歴史（１）

年	月日	主な出来事	交通関連
明治 39 年		長嶺村など 21 の村が合併し、広田村(こうだむら)と豊坂村(とよさかむら)の 2 つの村が誕生	
明治 39 年	4 月		国有鉄道の芦谷信号所(現幸田駅)が開業
明治 41 年		広田村から幸田村(こうだむら)に変更	
明治 41 年	9 月 11 日		芦谷信号所が駅に昇格、幸田駅が開業
昭和 27 年	4 月 1 日	町制施行、幸田町(こうだちょう)誕生	
昭和 29 年	8 月 1 日	豊坂村と合併し新生幸田町(こうたちょう)誕生	
昭和 31 年	11 月 19 日		東海道線全線電化が完成
昭和 42 年	3 月 20 日		三ヶ根駅開業
昭和 44 年	3 月 20 日		国道 248 号線バイパスが町内全線開通
昭和 45 年	7 月 1 日	人口が 2 万人突破	
昭和 48 年	11 月 9 日		三河湾スカイライン全線開通
昭和 54 年	3 月 31 日	人口 2 万 5,000 人突破	
昭和 55 年	2 月 25 日		幸田駅駅西駐車場完成
昭和 62 年	4 月 1 日		国鉄分割民営化により、東海旅客鉄道の営業開始

■幸田駅開業（明治 41 年）



写真提供：足立とし様

3. 都市及び都市交通の特性の整理

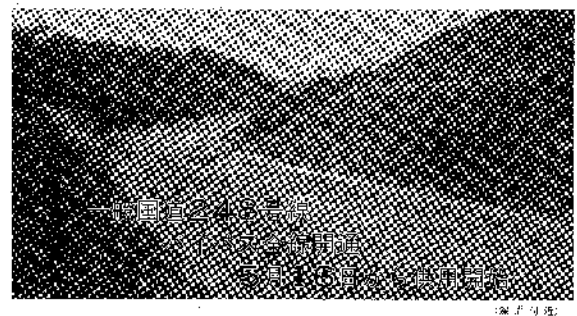
■幸田の交通施設整備の歴史（2）

年	月日	主な出来事	交通関連
平成 2 年	3 月 6 日	人口 3 万人を突破	
平成 8 年	4 月 1 日	三菱区が芦谷区に合併し 22 行政区となる	
平成 8 年	4 月 3 日		福祉巡回バス運行開始
平成 14 年	4 月 1 日	新行政区「桜坂区」が加わり 23 区となる	
平成 15 年	11 月 14 日	岡崎額田地区合併協議会参加見送り決定	
平成 17 年	4 月 21 日	人口 35,000 人を始めて超える	
平成 18 年	1 月 1 日	岡崎市、額田郡額田町が合併、幸田町は額田郡内唯一の町になる	
平成 18 年	2 月 1 日		三河湾スカイライン、県道蒲郡環状線に名称変更。有料道路から無料化
平成 19 年	3 月 26 日		国道 23 号名豊道路岡崎バイパス開通
平成 20 年	2 月 28 日		福祉巡回バスルートの更新
平成 20 年	2 月 29 日		幸田駅のバリアフリー完了(エレベーター 2 機、オストメイトトイレ設置)
平成 20 年	10 月 17 日		岡崎駅ー幸田駅間の新駅設置について JR 東海と基本協定締結

■三ヶ根駅開業（昭和 42 年）



■国道 248 号線バイパスが町内全線開通（昭和 44 年）



■福祉巡回バス運行開始（平成 8 年）



■国道 23 号名豊道路岡崎バイパス開通（平成 19 年）



3-1-2. 人口動向

(1) 人口・世帯の推移

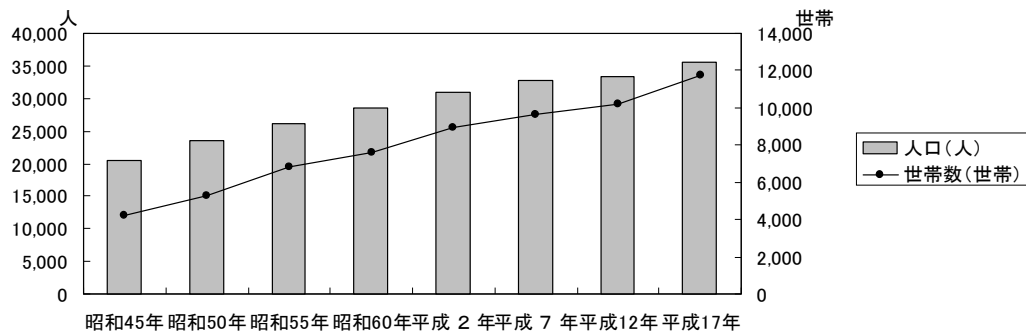
① 国勢調査

- ・本町の平成 17 年 10 月 1 日時点の人口は 35,596 人（11,715 世帯）です。
- ・人口増加率は、平成 12 年に若干鈍化しましたが、大規模工場跡地の住宅地開発等により、平成 17 年に回復しています。
- ・D I D 人口（平成 17 年）は、14,980 人で総人口の約 42.1%を占めています。
- ・本町の人口伸び率（平成 12～17 年）は 6.5%で、県及び近隣市町と比べると高い伸び率となっています。

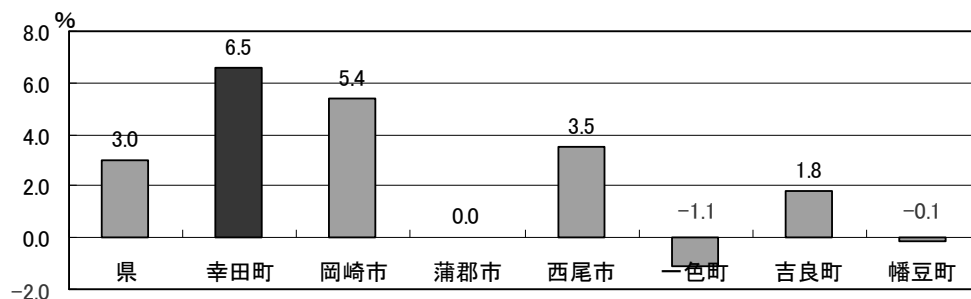
■人口・世帯数の推移

年 次	人口・世帯数			D I D	
	人口（人）	増加率（%）	世帯数（世帯）	人口（人）	割合（%）
昭和 45 年	20,456	—	4,203	—	—
昭和 50 年	23,448	14.6	5,299	—	—
昭和 55 年	26,163	11.6	6,802	—	—
昭和 60 年	28,591	9.3	7,615	—	—
平成 2 年	31,004	8.4	8,908	—	—
平成 7 年	32,711	5.5	9,638	11,551	35.3
平成 12 年	33,408	2.1	10,216	12,447	37.3
平成 17 年	35,596	6.5	11,715	14,980	42.1

資料：こうした統計（国勢調査）、平成 17 年は確定値に修正



■人口・世帯数の推移（国勢調査）



■近隣市町の人口伸び率（国勢調査平成12～17年）

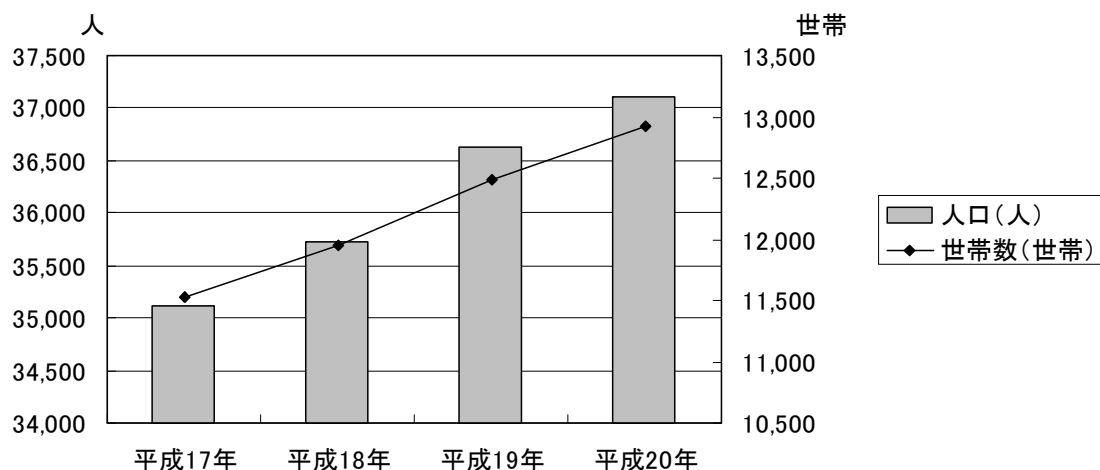
② 住民基本台帳（外国人含む）

- ・国勢調査は現時点では平成 17 年データまでしかないので、これ以降の人口・世帯数の推移について住民基本台帳等から整理します。
- ・人口、世帯数ともに、平成 17～20 年にかけて増加傾向にあり、平成 20 年 10 月 1 日現在 37,269 人、12,990 世帯となっています。

■人口・世帯数の推移

年 次	人口・世帯数		
	人口（人）	増加率（％）	世帯数（世帯）
平成 17 年	35,125	—	11,529
平成 18 年	35,729	1.7	11,956
平成 19 年	36,635	2.5	12,491
平成 20 年	37,269	1.7	12,990

資料：町ホームページ、人口動向統計調査（各年 10 月 1 日）



■人口・世帯数の推移（住民基本台帳等）

国勢調査の人口・世帯数

- ・平成 12 年、平成 17 年など 5 年毎の 10 月 1 日現在の居住者による人口・世帯数です。

住民基本台帳等の人口・世帯数

- ・住民基本台帳と外国人登録者の人口・世帯数の合計です。

(2) 地区別人口

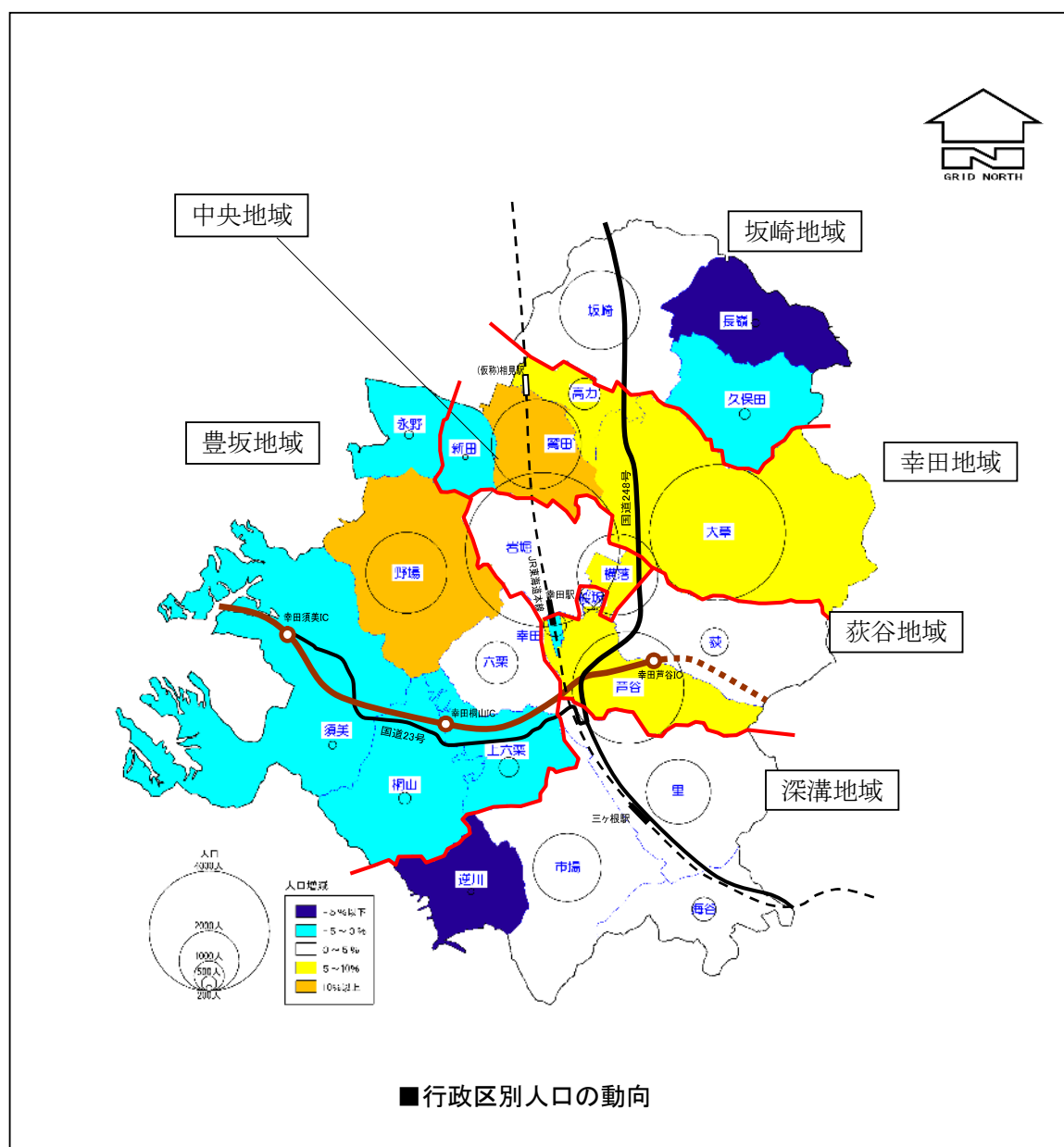
- ・行政区別の人口は、野場地区と新駅を含む鷺田地区が平成 17 年から平成 19 年にかけて 10%以上増加しています。
- ・町の南西部と北東部は減少傾向にあります。

■行政区別人口の推移

各年10月1日住民基本台帳・外国人登録										
地 域	行 政 区 名	平成 1 2 年		平成 1 7 年		平成 2 0 年		面積 (km ²)	人口増加率 (H17/H20)	人口密度 (1km ² 当たり)
		世帯数	人口(人)	世帯数	人口(人)	世帯数	人口(人)			
坂 崎	長 嶺	61	262	66	269	67	255	2.323	-5.2%	109.8
	久保田	91	382	98	368	104	361	2.372	-1.9%	152.2
	坂 崎	899	2,619	921	2,641	1,041	2,751	3.933	4.2%	699.5
幸 田	大 草	1,139	3,959	1,325	4,280	1,560	4,562	7.002	6.6%	651.5
	高 力	291	1,024	312	1,026	367	1,114	0.912	8.6%	1,221.5
	鷺 田	845	2,592	842	2,618	1,124	3,198	2.475	22.2%	1,292.1
	新 田	43	182	44	172	47	171	0.548	-0.6%	312.0
中 央	岩 堀	1,496	4,774	1,752	5,019	1,920	5,187	2.002	3.3%	2,590.9
	横 落	656	1,968	878	2,537	965	2,743	0.393	8.1%	6,979.6
荻 谷	荻	235	893	260	918	267	922	3.257	0.4%	283.1
	芦 谷	1,309	3,498	1,414	3,565	1,551	3,771	3.152	5.8%	1,196.4
	幸 田	243	779	258	774	259	725	0.123	-6.3%	5,894.3
	桜 坂	-	-	212	752	222	810	0.065	7.7%	12,461.5
深 溝	里	638	2,101	734	2,114	790	2,174	3.951	2.8%	550.2
	市 場	654	2,269	671	2,250	743	2,321	3.467	3.2%	669.5
	海 谷	236	793	250	788	265	794	1.102	0.8%	720.5
	逆 川	52	238	58	228	57	203	1.945	-11.0%	104.4
豊 坂	野 場	498	1,689	517	1,691	667	2,081	3.969	23.1%	524.3
	永 野	63	295	70	292	71	284	1.487	-2.7%	191.0
	須 美	91	418	90	419	96	407	5.960	-2.9%	68.3
	六 栗	429	1,396	451	1,353	478	1,403	1.985	3.7%	706.8
	上六栗	187	654	209	648	223	638	1.875	-1.5%	340.3
	桐 山	93	440	97	403	106	394	2.482	-2.2%	158.7
合 計		10,249	33,225	11,529	35,125	12,990	37,269	56.780	6.1%	656.4

資料：町ホームページ、人口動向統計調査（各年 10 月 1 日）

3. 都市及び都市交通の特性の整理



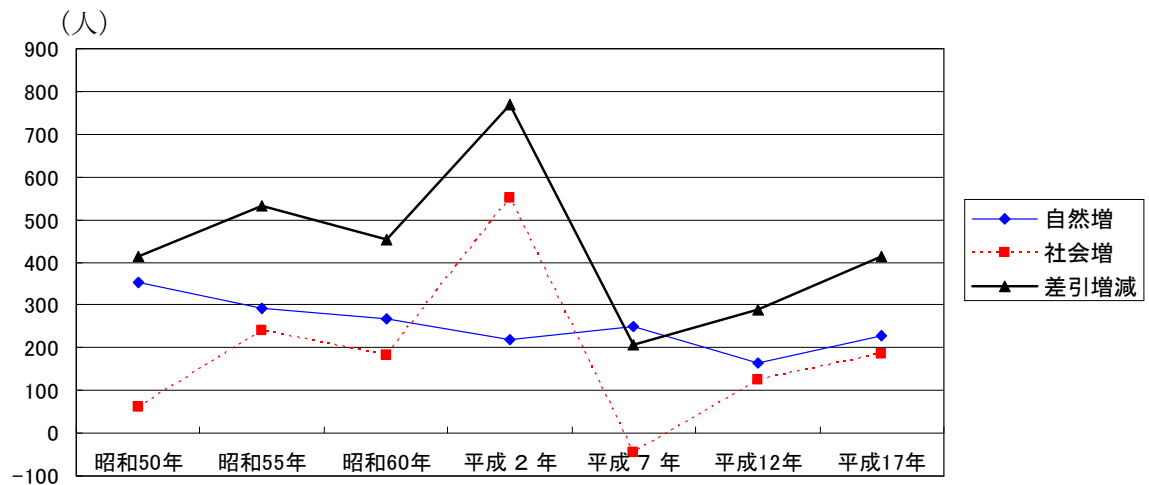
(3) 人口動態

- ・人口動態では、出生が死亡を上回り増加しています。社会動態も同様に転入が概ね転出を上回り増加しています。
- ・自然増、社会増をあわせ年間約 210～770 人の増加があります。

■人口動態

年 次	自然動態 (人)			社会動態 (人)				差引増減
	出生	死亡	自然増	転入	転出	その他の増減	社会増	
昭和 50 年	480	127	353	1,108	1,047	1	62	415
昭和 55 年	443	150	293	1,401	1,161	—	240	533
昭和 60 年	400	132	268	1,137	953	—	184	452
平成 2 年	365	145	220	1,873	1,276	△48	549	769
平成 7 年	418	167	251	1,365	1,381	△28	△44	207
平成 12 年	370	206	164	1,517	1,373	△19	125	289
平成 17 年	427	199	228	1,949	1,559	△203	187	415

資料：こうたの統計



■人口動態 (昭和 50 年～平成 17 年)

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(4) 年齢別人口

- ・本町の年齢別人口（平成 17 年）は、0～14 歳が 16.3%、15～64 歳が 68.6%、65 歳以上が 15.0%となっています。
- ・本町は県平均と比べ、0～14 歳人口、15～64 歳人口の比率が高くなっています。
- ・65 歳以上の人口割合は、全国的な傾向と同様に年々増加していますが、県や近隣市町と比べ低くなっており、県平均よりは少子高齢化の進行が遅いといえます。

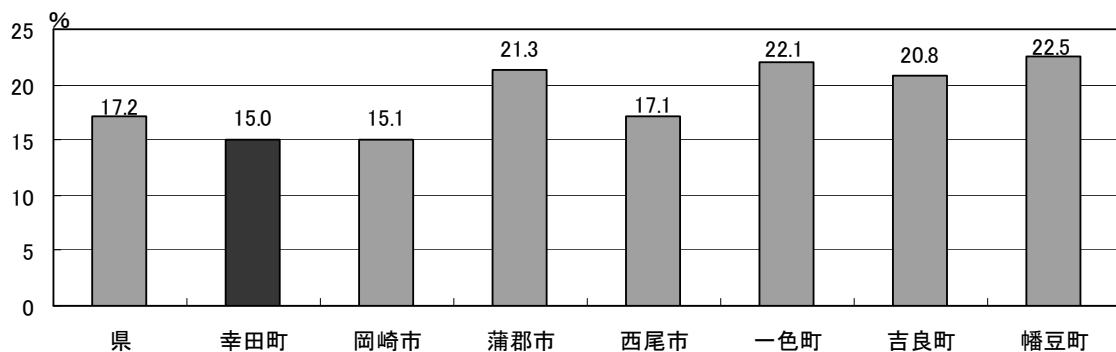
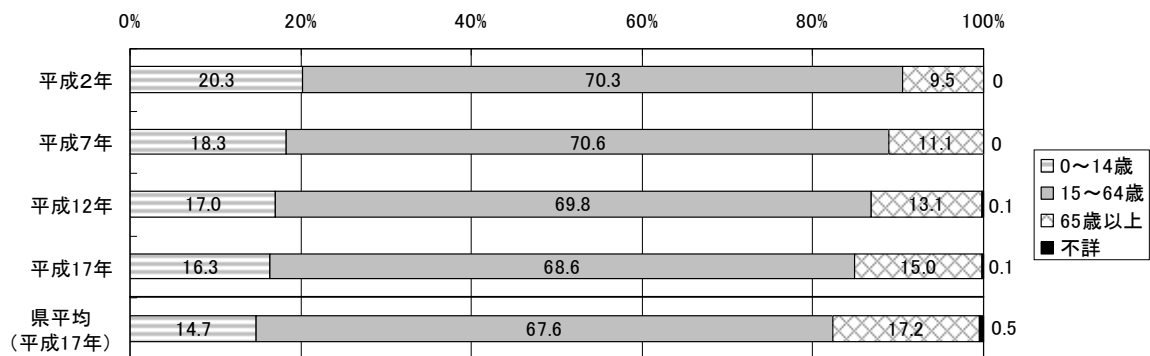
■年齢別人口の推移

各年 10 月 1 日

年 次	0～14 歳		15～64 歳		65 歳以上	
	人 口	比率 (%)	人 口	比率 (%)	人 口	比率 (%)
平成 2 年	6,286	20.3	21,783	70.3	2,935	9.5
平成 7 年	5,983	18.3	23,101	70.6	3,627	11.1
平成 12 年	5,664	17.0	23,334	69.8	4,410	13.1
平成 17 年	5,797	16.3	24,430	68.6	5,369	15.0
県 平 均	—	14.7	—	67.6	—	17.2

注：年齢不詳は含まない

資料：こうしたの統計（国勢調査）及び国勢調査データ



■近隣市町の 65 歳以上の高齢者割合

(5) 外国人人口

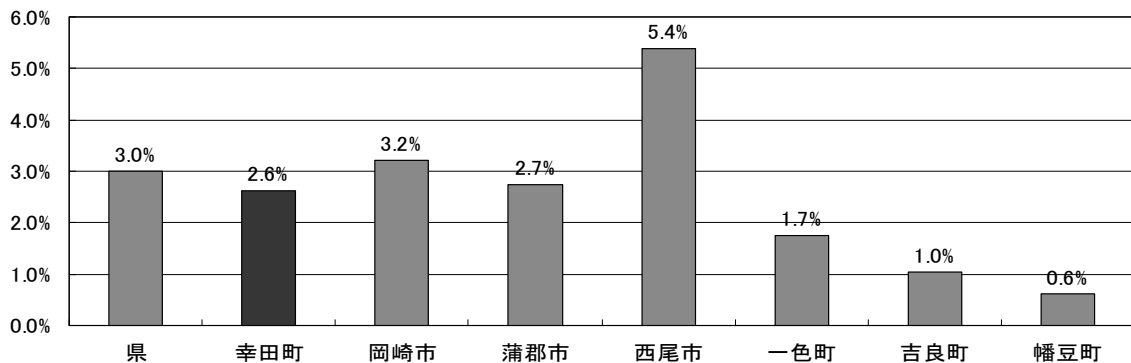
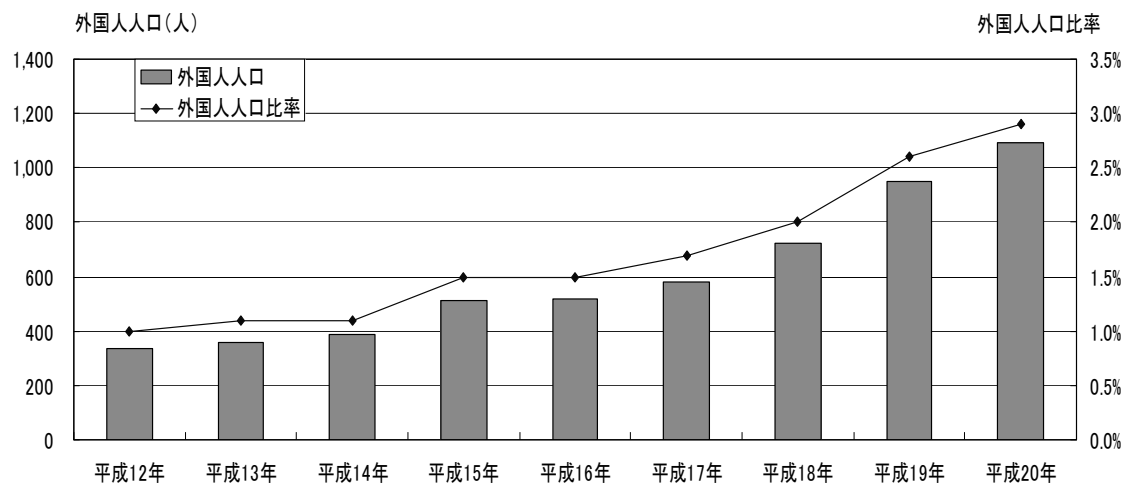
- ・外国人人口は平成 18 年から激増しており、平成 19 年で 950 名(2.6%)となっています。
- ・外国人人口の割合は、全国的な傾向と同様に年々増加していますが、県や近隣市町と比べ、やや低くなっています。

■外国人人口の推移

各年 10 月 1 日

	総人口	外国人人口			外国人人口比率
		男	女	総数	
平成 12 年	33,225	180	158	338	1.0%
平成 13 年	33,483	184	172	356	1.1%
平成 14 年	33,969	186	201	387	1.1%
平成 15 年	34,455	237	275	512	1.5%
平成 16 年	34,710	228	289	517	1.5%
平成 17 年	35,125	284	296	580	1.7%
平成 18 年	35,729	387	337	724	2.0%
平成 19 年	36,635	471	479	950	2.6%
平成 20 年	37,269	470	624	1,094	2.9%

資料：こうたの統計（住民基本台帳、外国人登録）



資料：愛知県内の外国人登録者の状況(愛知県国際課)

■近隣市町の外国人人口比率[2007 年 12 月 31 日現在]

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(6) 昼夜間人口比率

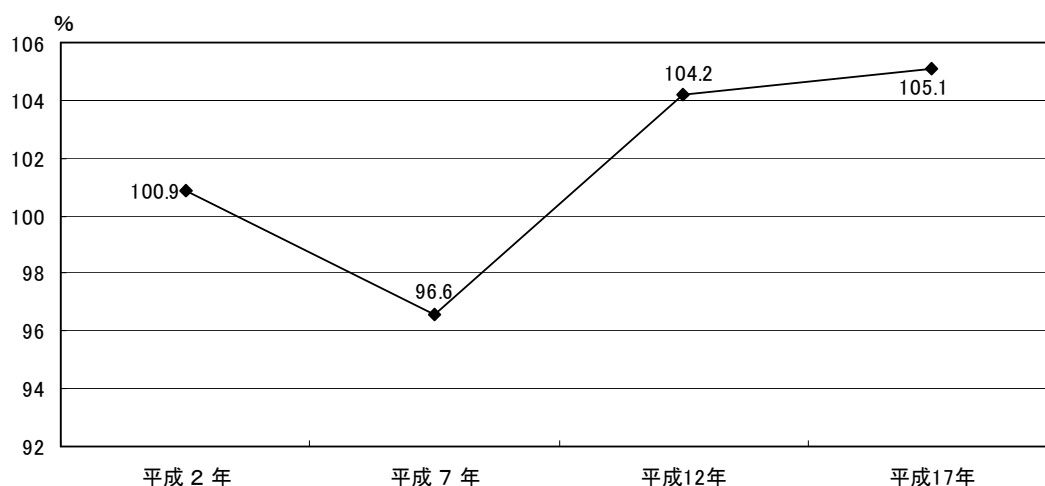
- ・本町の昼夜間人口比率（平成 17 年）は 105.1%と昼間人口が夜間人口を上回っており、増加傾向を示しています。
- ・昼夜間人口比率は、近隣市町に比べ高い率となっています。

■昼夜間人口の推移

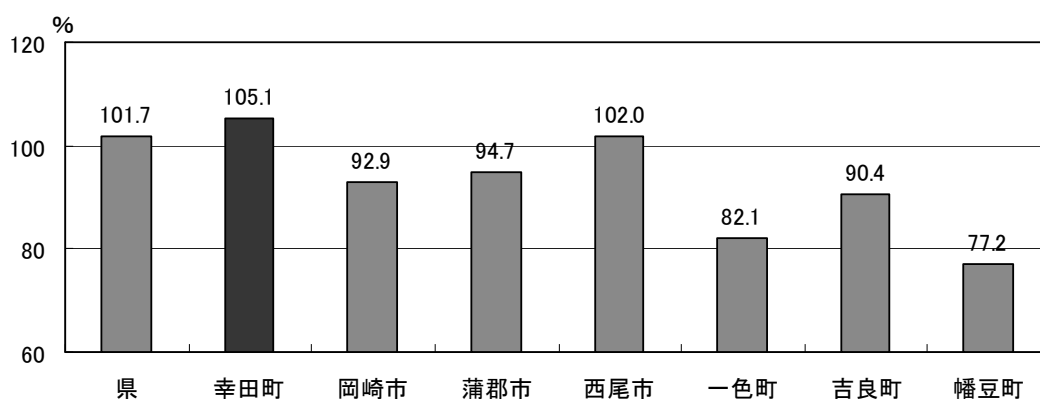
各年 10 月 1 日

年 次	夜間人口	流出口口	流入人口	流出入 人口の差	昼間人口	昼夜間 人口比率
平成 2 年	31,004	8,787	9,081	294	31,298	100.9
平成 7 年	32,711	10,150	9,068	△ 1,082	31,629	96.6
平成 12 年	33,408	10,425	11,847	1,422	34,830	104.2
平成 17 年	35,596	10,943	12,790	1,847	37,443	105.1

資料：こうたの統計（国勢調査）



■昼夜間人口比率の推移（国勢調査平成 2 ～17 年）



■近隣市町の昼夜間人口比率（国勢調査平成 17 年）

3-1-3. 土地利用動向

(1) 土地利用現況

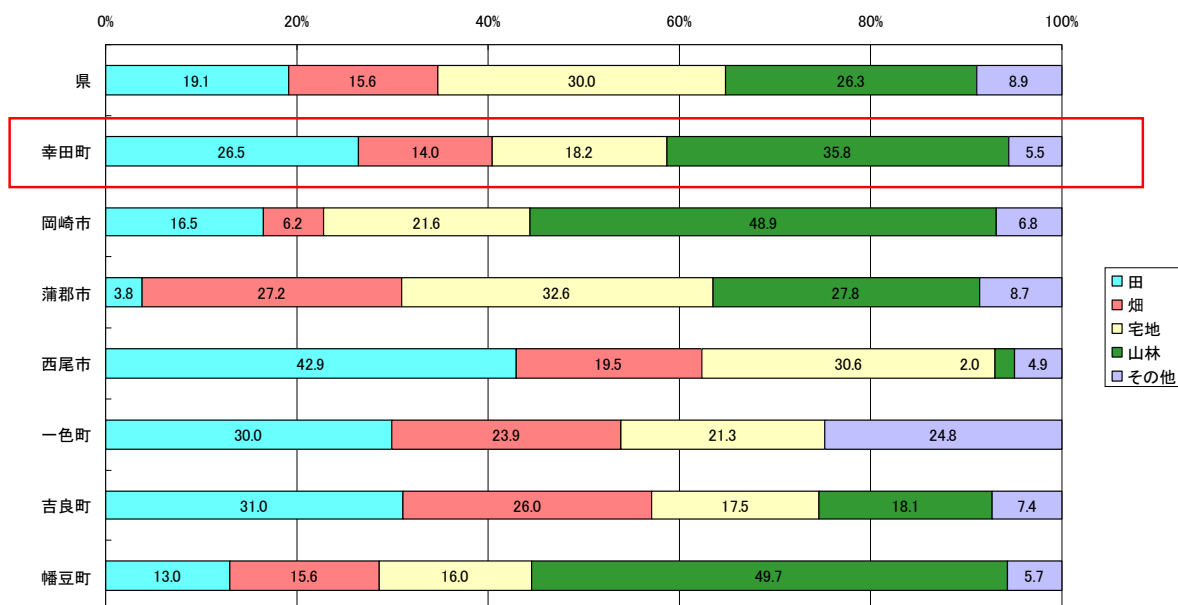
① 町域

- ・本町は、中央の平地部に市街地を形成し、その周囲は水田を中心とする農地、さらにそれらを取り囲む森林によって構成されています。
- ・町域全体の土地利用は、森林が 43.1%、農地が 20.6%、宅地が 11.3%を占めています。
- ・本町は幡豆町と並んで農地と山林の占める割合が高くなっています。

■土地利用の現況

区 分	総数	農地		宅地	森林	水面	道路	その他
		田	畑					
面積(ha)	5,678	1,170	777	641	2,452	199	486	730
構成比(%)	(100.0)	(20.6)	(13.7)	(11.3)	(43.1)	(3.5)	(8.6)	(12.9)

資料：土地に関する統計年報（平成 17 年版）こうたの統計



資料：愛知県統計年鑑（平成 19 年度刊）

■近隣市町の土地利用の現況（民有地）

3. 都市及び都市交通の特性の整理

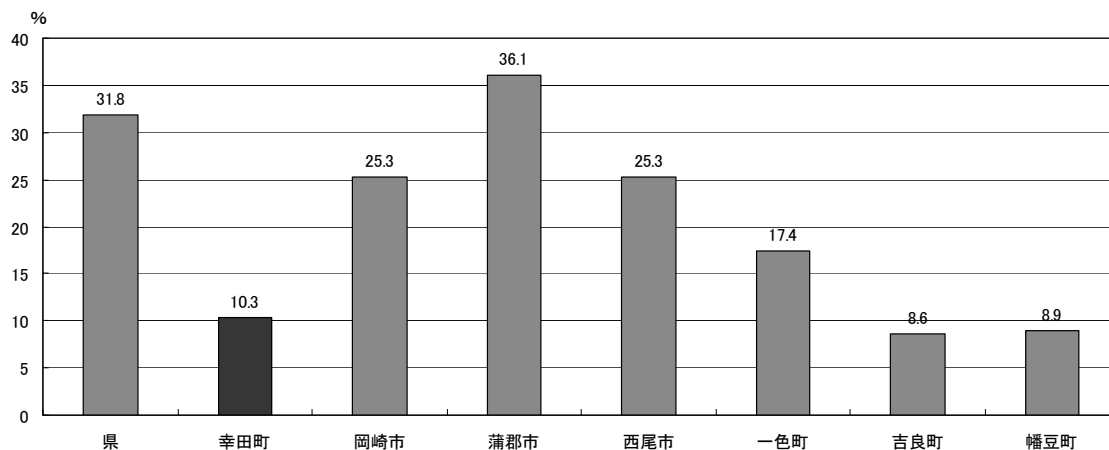
② 市街化区域

- ・市街化区域内の土地利用は、住宅用地が 27.8%、商業用地が 4.8%、工業用地が 24.0%、農地が 6.5%、山林が 3.2%などとなっています。
- ・都市的土地利用（宅地）は、72.3%となっており、道路率は 13%となっています。
- ・市街化区域面積の都市計画区域面積に対する比率は、一色町、幡豆町と同様 10%前後と低く、コンパクトな市街地を形成しています。

■市街化区域内の土地利用現況

種 別		面積(ha)	割合 (%)	備 考
宅 地	住宅用地	162.80	27.8	
	商業用地	28.38	4.8	
	工業用地	140.58	24.0	
	その他	91.95	15.7	・公的・公益設用地、交通施設用地、公共空地、その他空地
	小計	423.71	72.3	
非 宅 地	農地	37.86	6.5	・都市的未利用地：56.82ha（9.7%）
	山林	18.96	3.2	
	道路	75.94	13.0	
	水面	9.59	1.6	・河川など
	その他	20.16	3.4	・その他の自然地
	小計	162.51	27.7	
合 計		586.22	100.0	・市街化区域は585ha、都市計画基礎調査の合計面積586.22haとなっています。

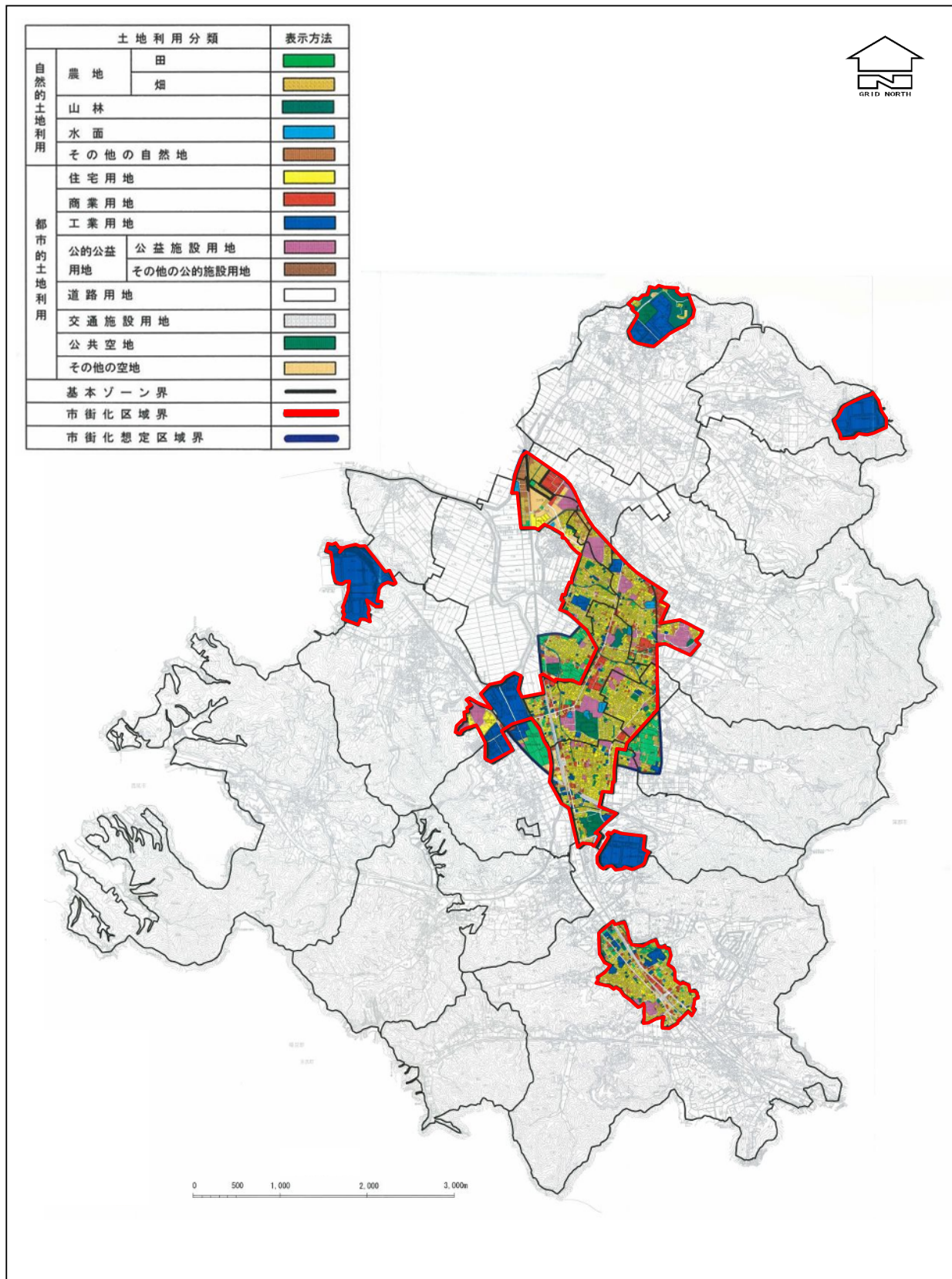
資料：平成 19 年都市計画基礎調査



■近隣市町の市街化区域の都市計画区域に対する割合の比較

③ 市街化調整区域

- ・市街化調整区域は、市街地周辺や主要な河川沿いが集落地や農地として利用され、その外周は森林地域となっています。



■土地利用現況図（平成 19 年都市計画基礎調査）

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(2) 土地利用規制

① 都市計画区域

- ・本町は行政区域全域の 5,678ha が都市計画区域となっており、うち市街化区域が 585ha (10.3%)、市街化調整区域が 5,093ha (89.7%) となっています。

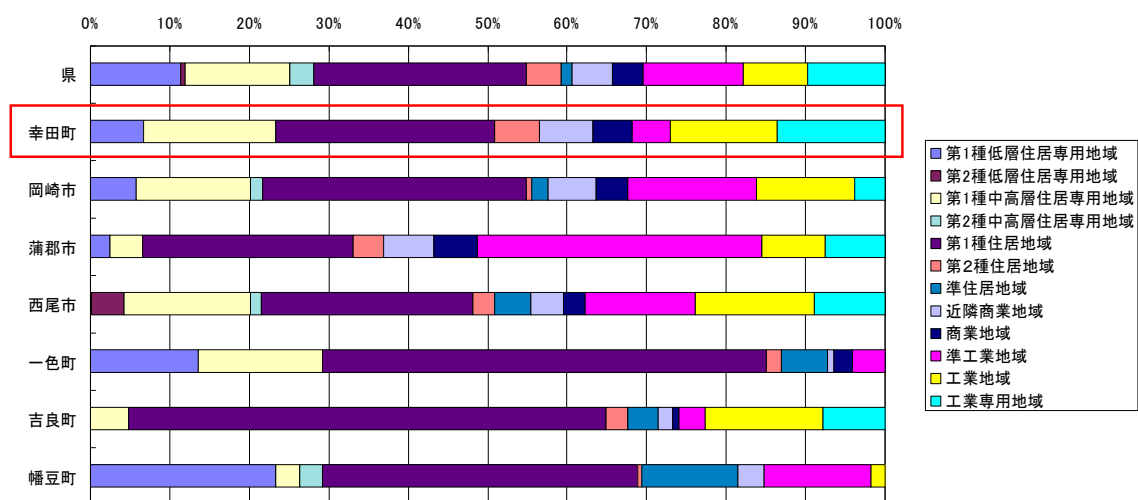
② 用途地域

- ・市街化区域 585ha を対象として用途地域が指定されています。内訳は住居系が 56.3%、商業系が 11.4%、工業系が 32.3%となっています。
- ・県及び近隣市町の用途地域をみると、本町は工業専用地域の割合が高いといえます。

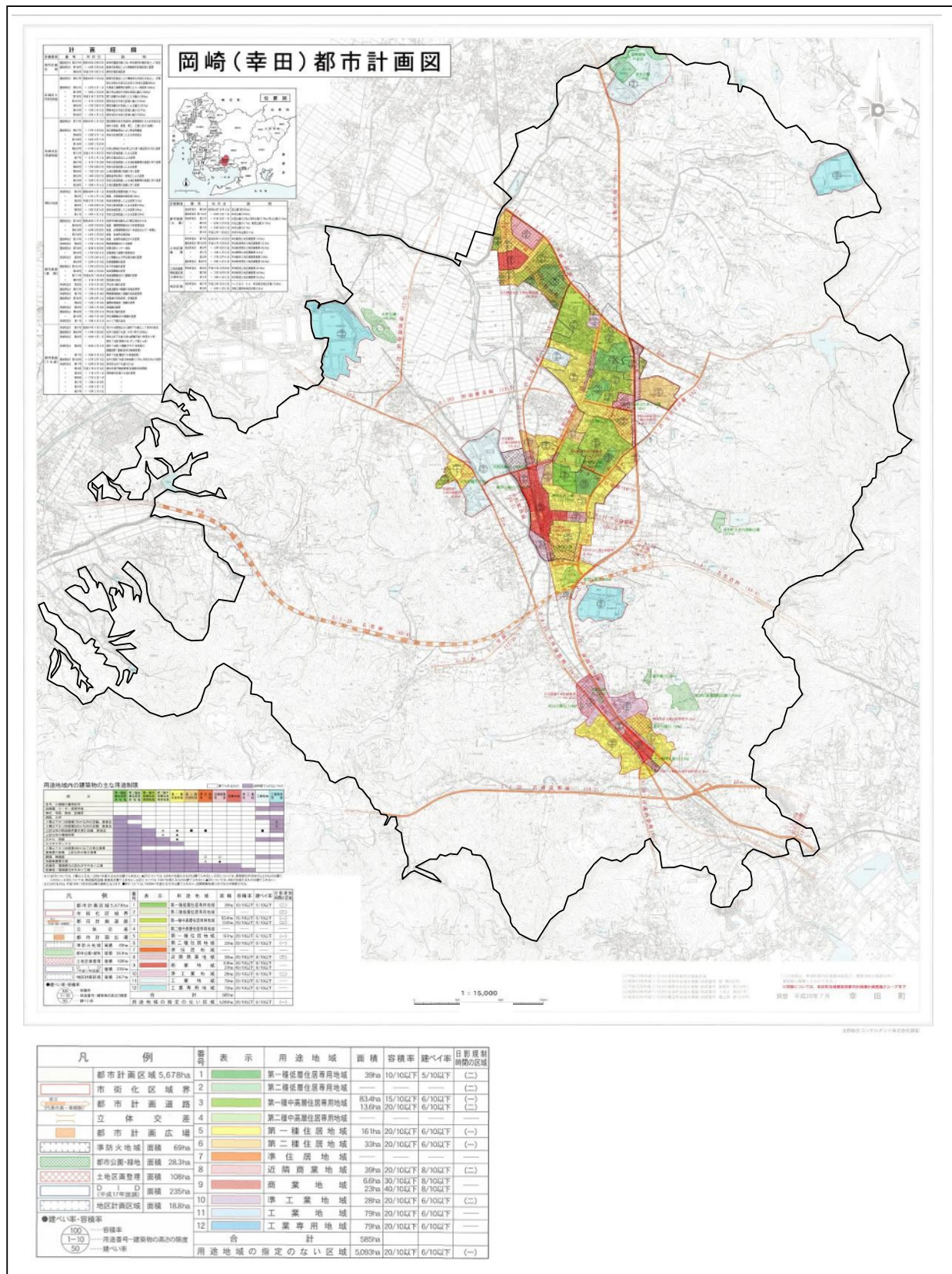
■用途地域

種 別	面積 (ha)		容積率	建ぺい率	比率 (%)	
第 1 種低層住居専用地域	39		100	50	6.8	56.3
第 1 種中高層住居専用地域	97	83.4	150	60	16.8	
		13.6	200	60		
第 1 種住居地域	161		200	60	27.0	
第 2 種住居地域	33		200	60	5.7	
近隣商業地域	39		200	80	6.2	11.4
商業地域	29	6.4	300	80	5.2	
		23	400	80		
準工業地域	28		200	60	4.9	32.3
工業地域	79		200	60	13.7	
工業専用地域	79		200	60	13.7	
合 計	585		—	—	100.0	

資料：幸田町の都市計画（平成20年4月作成）



■近隣市町の用途地域面積割合の比較（各市町データ）



■用途地域図

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(3) D I Dの変遷

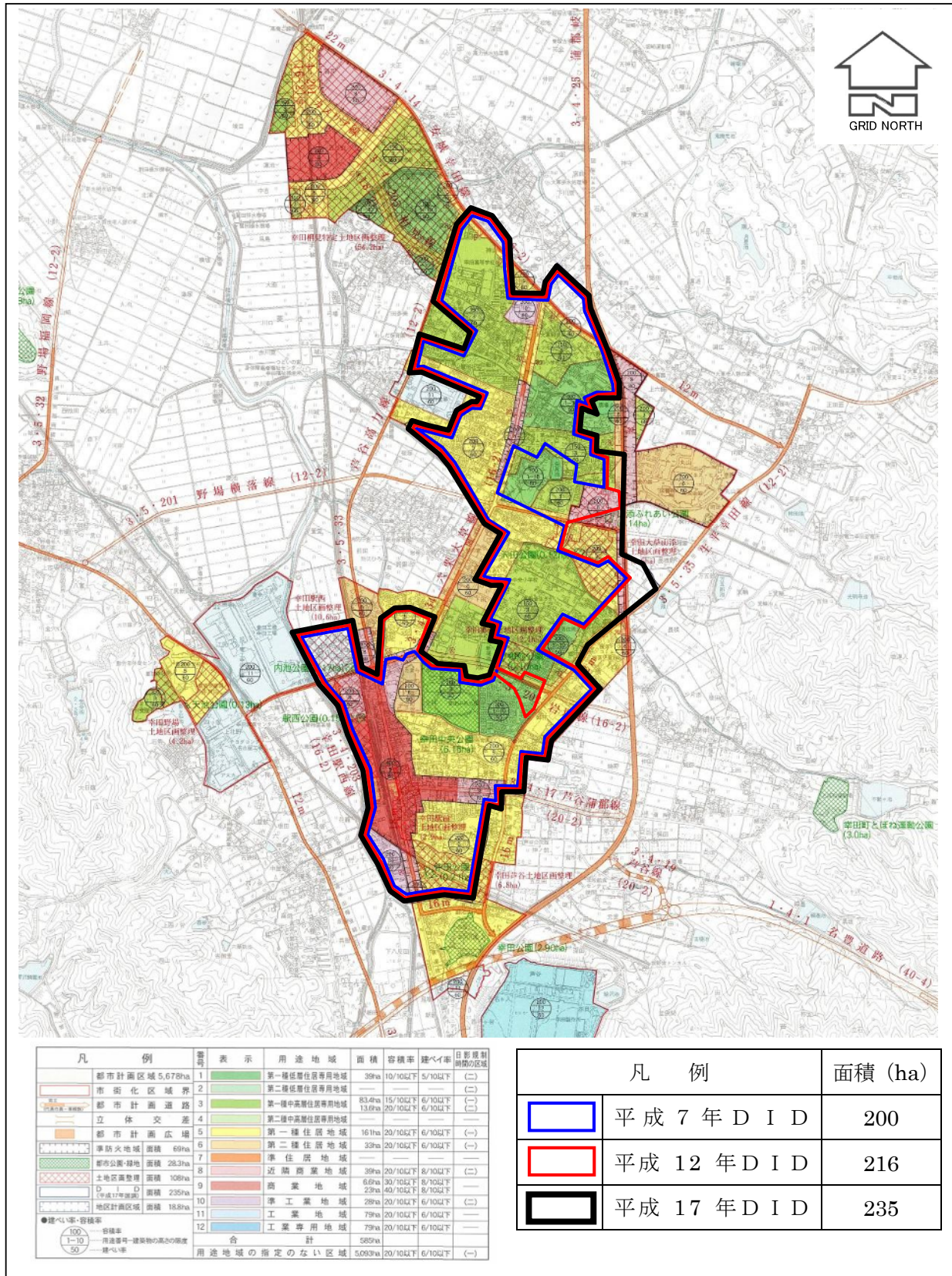
- ・D I D面積は平成 17 年現在 235ha で、平成 7～12 年で約 8 %、平成 12～17 年で約 9 % 増加しています。
- ・平成 17 年現在のD I D面積は、行政区域面積 5,678ha の約 4%、用途地域面積 585ha の約 40%を占めています。

■D I Dの変遷

年 次	総人口	D I D人口(人)	面積 (ha)	増加率 (%)
平 成 7 年	32,711	11,551	200	—
平成 12 年	33,408	12,447	216	8.0%
平成 17 年	35,596	14,980	235	8.8%

※ D I D（人口集中地区）とは…

市区町村の区域内で人口密度が 4,000 人/km²以上の基本単位区が互いに隣接して人口が 5,000 人以上となる地区のことをいいます。



■ D I D の変遷図

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(4) 基盤整備等の動向

- ・土地区画整理事業は施行済が8地区(51.7ha)、施行中が2地区(57.08ha)となっています。
- ・工業用地造成は、5地区165.3haとなっています。
- ・地区計画は4地区で指定されています。
- ・大規模住宅開発は1地区(桜坂住宅開発:6.6ha、222世帯)が行われています。

■土地区画整理事業

地区名		面積 (ha)	施行年度	計画人口	施行主体
施行済	幸田深溝地区	11.8	昭和 51～58 年	407	・組合
	幸田里前地区	5.8	昭和 57～平成 2 年	428	〃
	幸田三ヶ根南地区	1.8	昭和 58～平成元年	128	〃
	幸田駅西地区	10.6	昭和 58～平成 3 年	720	〃
	幸田芦谷地区	6.8	昭和 59～平成 8 年	607	〃
	横落郷前地区	2.1	平成 8～13 年	208	〃
	大草山添地区	8.6	平成 8～16 年	860	〃
	野場地区	4.2	平成 15～19 年	419	〃
施行済 計		51.7		3,777	
施行中	相見地区	54.19	平成 10～26 年	3,100	・組合
	幸田駅前地区	2.89	平成 18～27 年	256	・公共
	施行中 計	57.08		3,356	
合 計		108.78			

資料：幸田町の都市計画（平成 21 年 4 月作成）

■工業用地造成事業（施行済）

地区名等	面積 (ha)	施行年度	計画従業員数	施行主体
駅西地区工業団地	52.4	昭和 42～44 年	999	県企業庁
坂崎地区工業団地	33.9	昭和 46～47 年	2,652	〃
中部地区工業団地	20.0	昭和 59～61 年	3,640	〃
長嶺地区工業団地	20.7	平成元～3 年	600	〃
西尾地区工業団地	38.3	昭和 49～52 年	10,000	日本電装(株)
合 計	165.3			

資料：幸田町の都市計画（平成 21 年 4 月作成）

■地区計画（地区施設に関する定めのあるもの）

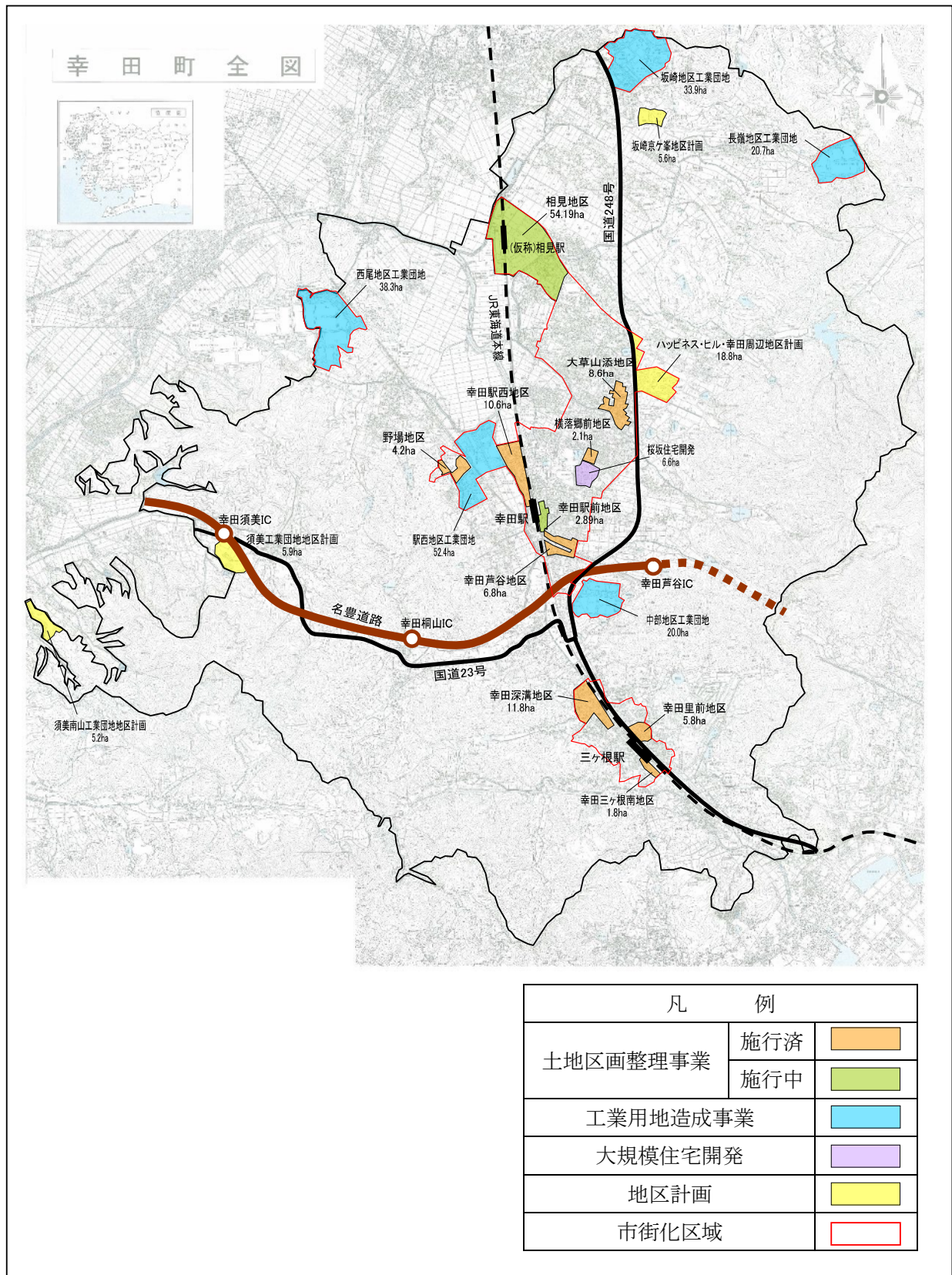
地区名等	面積 (ha)	告示年月
ハピネス・ヒル・幸田周辺地区計画	18.8	平成 12 年 10 月 31 日
須美工業団地地区計画	5.9	平成 20 年 3 月 31 日
須美南山工業団地地区計画	5.2	平成 21 年 1 月 26 日
坂崎京ヶ峯地区計画	5.6	平成 21 年 3 月 25 日

資料：幸田町の都市計画（平成 21 年 4 月作成）

■大規模住宅開発

地区名等	面積 (ha)	備考
桜坂住宅開発	6.6	人口 806 人（222 世帯）

資料：町資料

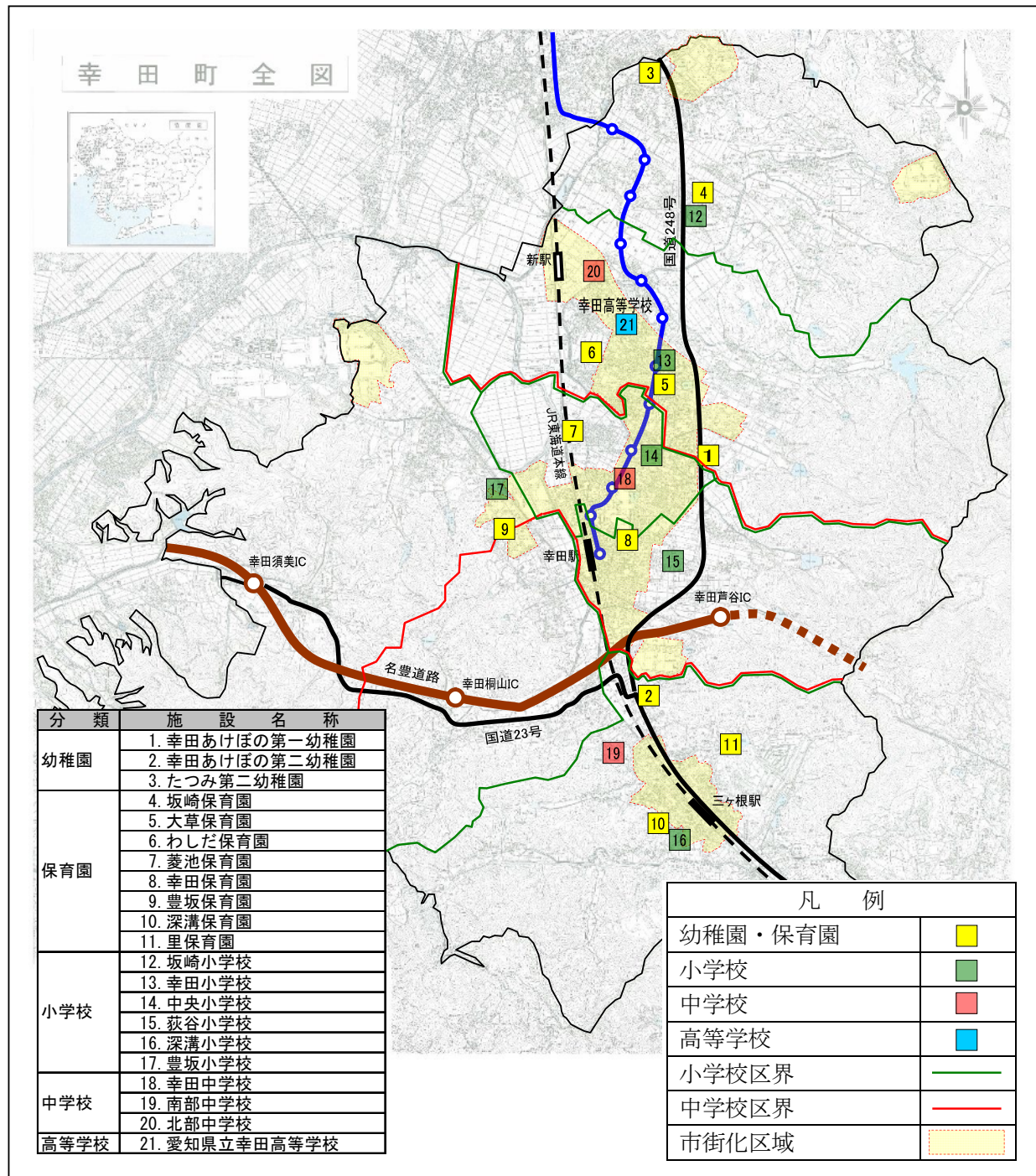


■市街化動向

3-1-4. 施設分布状況

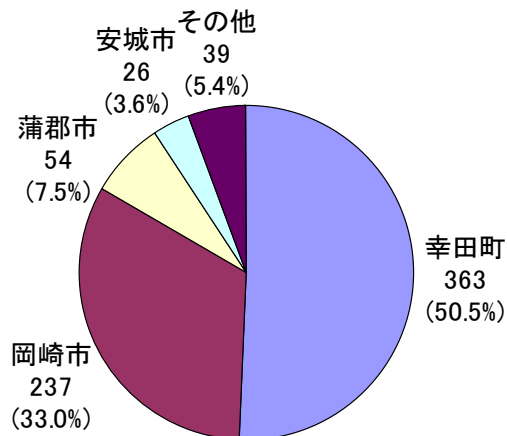
(1) 教育施設等

- ・本町には私立幼稚園3園、町立保育園8園、町立小学校6校、町立中学校3校、県立高校1校があります。
- ・新駅が設置されれば、幸田駅から名鉄バスや自転車で通学していた幸田高校の生徒が、新駅から徒歩等で通学することが予想されます。



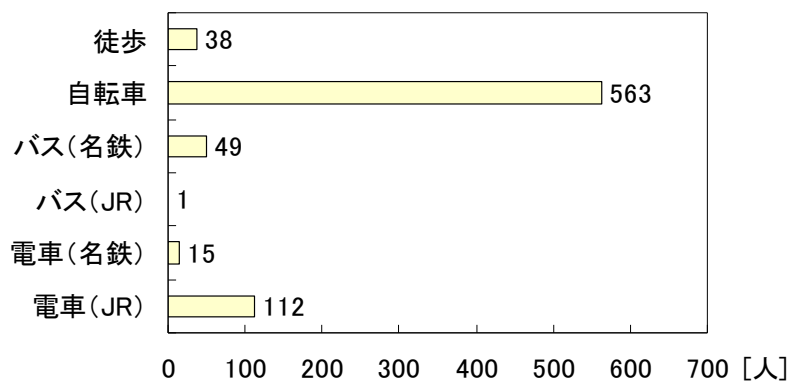
■教育施設位置図

- ・県立幸田高等学校は、生徒数が 719 名（平成 20 年 4 月 8 日現在）で、このうち幸田町に居住する生徒が約半数を占め、次いで岡崎市からの生徒が約 3 分の 1 となっています。
- ・自転車利用のみの生徒が 563 名（78.3%）と非常に多く、高校周辺における自転車走行空間の安全性の確保が求められます。



【資料：幸田町 H20 度資料】

■幸田高等学校の通学区域別生徒数



※交通機関の利用が二つ以上の生徒は、複数の交通機関を回答している。
ただし、「徒歩」、「自転車」は、それぞれ「徒歩のみ」、「自転車のみ」の人数とする。

【資料：幸田町 H20 度資料】

■幸田高等学校生徒の通学手段

3. 都市及び都市交通の特性の整理

(2) 公共公益施設

- ・町内の公共公益施設は以下のとおりです。
- ・平成8年にオープンした図書館及び町民会館並びに町民プールの3施設を中心とする“ハッピネス・ヒル・幸田”は、町の文化情報の拠点施設として利用者が多く、図書館の入館者数は年々増加しており、平成19年で14万人を越えています。また、町民プールの入れ込み客数も、毎年10万人を越えています。
- ・特に、イベント時には、多くの来場者があります。

■ハッピネス・ヒル・幸田

ハッピネス・ヒル・幸田は、図書館・会館・プールが隣接する複合施設です。

図書館には、15万冊の図書の他にもビデオ・CDなどを取り揃えるほか、ハイビジョンシアターを併設しています。

町民会館は、1,004の客席のさくらホールなど、芸術や文化を鑑賞・体験できる町民の文化活動の中枢施設です。

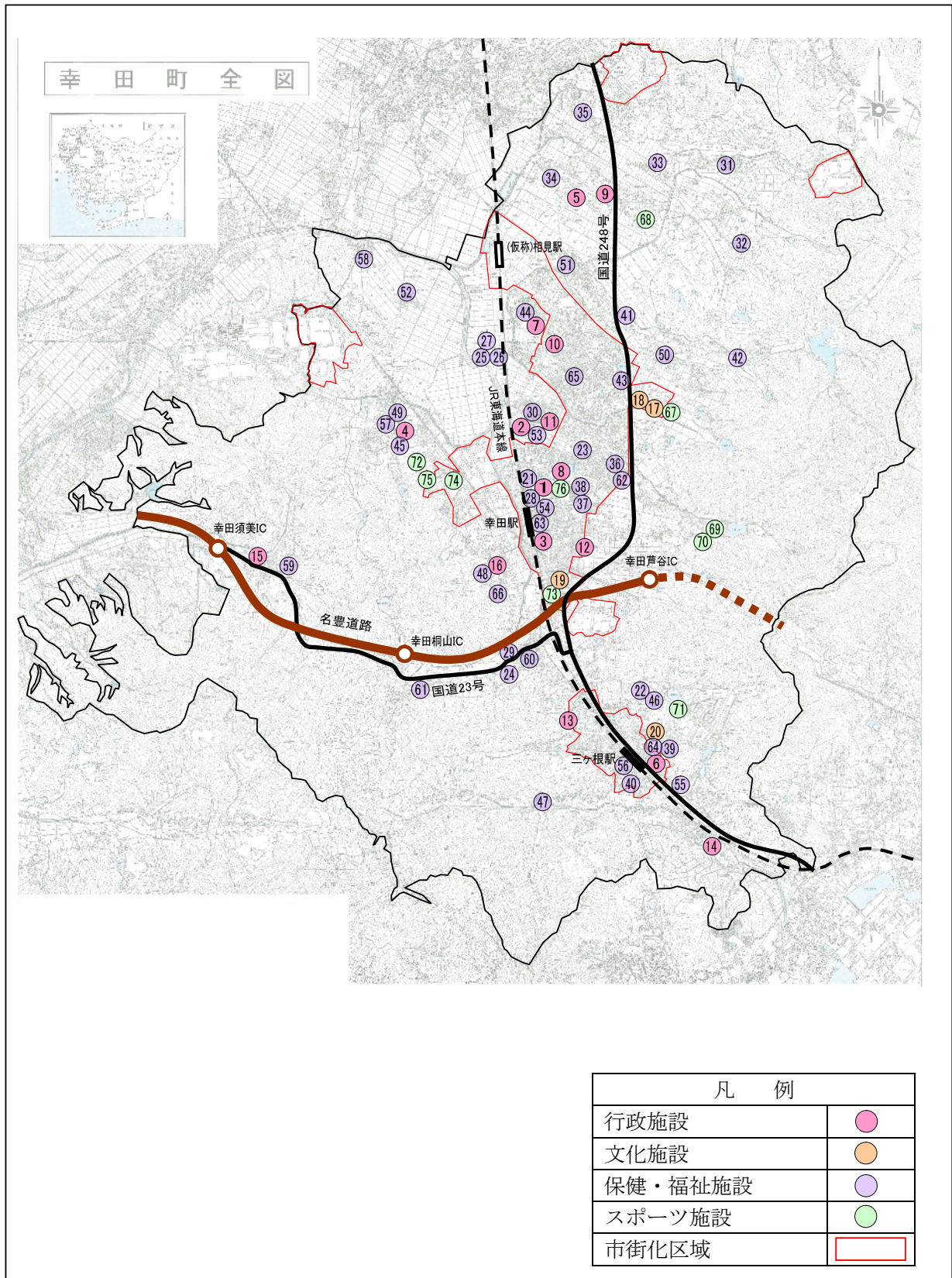
プールは、屋内温水プールの他にも流水プールのある屋外プールや、トレーニング室などを設置しています。



■公共公益施設一覧

分類	施設名称
行政施設	役場
	2. 消防署
	3. 岡崎警察署幸田交番
	4. 野場駐在所
	5. 坂崎駐在所
	6. 深溝駐在所
	7. 地域安全ステーション
	8. 中央公民館
	9. 坂崎公民館
	10. 鷺田公民館
	11. 岩堀公民館
	12. 戸谷公民館
	13. 市場公民館
	14. 海谷公民館
	15. 須美公民館
	16. 六栗公民館
文化施設	17. 町民会館
	18. 町立図書館
	19. さくら会館
	20. 郷土資料館
保健・福祉施設	21. 保健センター
	22. 老人福祉センター
	23. 高齢者生きがいセンター
	24. 高齢者ふれあいプラザ
	25. 身体障害者福祉センター（つどいの家）
	26. 幸田福祉授産所（つどいの家）
	27. 地域活動支援センター（つどいの家）
	28. 福祉サービスセンター
	29. 上六栗子育て支援センター
	30. 菱池子育て支援センター

分類	施設名称
保健・福祉施設	コミュニティ施設
	31. 長嶺コミュニティホーム
	32. 久保田コミュニティホーム
	33. 坂崎1番組コミュニティホーム
	34. 坂崎7番組コミュニティホーム
	35. 坂崎8番組コミュニティホーム
	36. 横落コミュニティセンター
	37. 戸谷コミュニティセンター
	38. 桜坂コミュニティホーム
	39. 里中央コミュニティホーム
	40. 三ヶ根駅前コミュニティホーム
	41. 大草西コミュニティホーム
	42. 大草東コミュニティホーム
	43. 大草南コミュニティホーム
	44. 鷺田コミュニティホーム
	45. 野場南部コミュニティセンター
	46. 里西コミュニティホーム
	47. 一ノ瀬コミュニティホーム
	48. 六栗コミュニティホーム
	49. 野場ふれあいセンター
	老人憩の家
	50. 大草老人憩の家
	51. 高力老人憩の家
	52. 新田老人憩の家
	53. 岩堀老人憩の家
	54. 幸田老人憩の家
	55. 里東老人憩の家
	56. 深溝老人憩の家
	57. 野場老人憩の家
	58. 永野老人憩の家
	59. 須美老人ふれあいの家
	60. 上六栗老人憩の家
	61. 桐山老人憩の家
	児童館
	62. 横落児童館
	63. 幸田児童館
	64. 深溝児童館
	65. 欠間児童館
	66. 六栗児童館
	スポーツ施設
	67. 町民プール
	68. 坂崎運動場
	69. とほね運動場
	70. とほね庭球場
	71. 深溝運動場
	72. 大日蔭運動場、大日蔭グラウンド・ゴルフ場
	73. 幸田文化広場庭球場
	74. 豊坂庭球場
	75. 幸田勤労者体育センター
	76. 弓道場



■ 公共公益施設位置図

(3) 公園・緑地

- ・本町の都市計画公園は、9箇所、そのうち地区公園が1箇所、近隣公園が1箇所、街区公園が7箇所ですべて供用済です。
- ・その他の都市公園は、10箇所、そのうち地区公園が1箇所、近隣公園が3箇所、街区公園が5箇所、緩衝緑地が1箇所ですべて供用済です。
- ・本町は、遠望峰山、三ヶ根山の計396haが三河湾国定公園（第3種特別地域）に指定されており、良好な自然環境・景観を有しています。
- ・国道248号から三河湾国定公園を結ぶアクセス道路として、三河湾が一望できる旧三河湾スカイライン（（県）蒲郡環状線）があります。
- ・本町には大規模公園は無く、町外からの交通の呼び込みは無いが、幸田公園においては“幸田しだれ桜まつり”が開催され、町内外を問わず多くの人が訪れます。



■幸田中央公園（地区公園）



■幸田公園（近隣公園）



■幸田町とぼね運動公園（近隣公園）



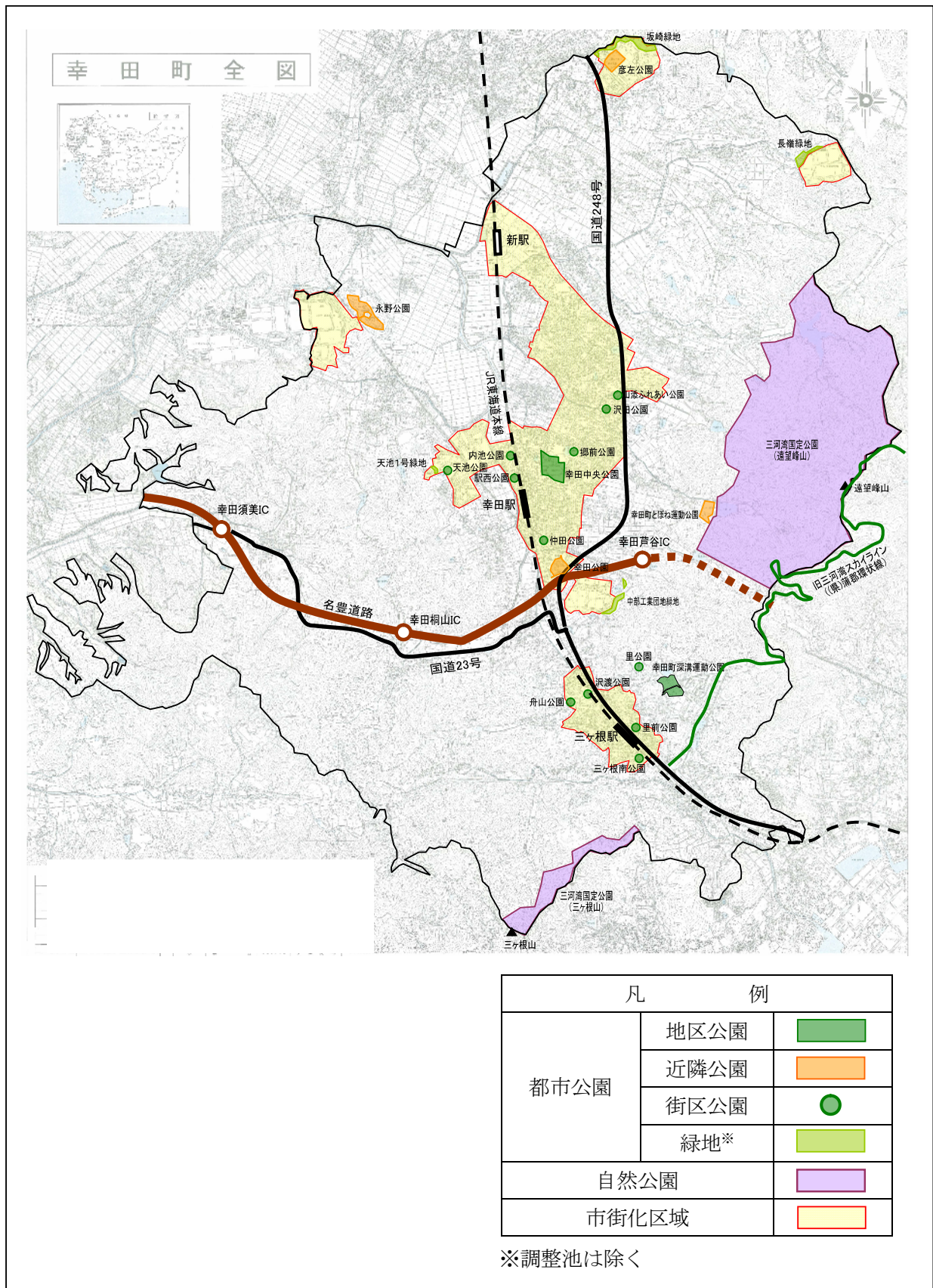
■内池公園（街区公園）



■幸田町深溝運動公園（地区公園）



■三河湾国定公園

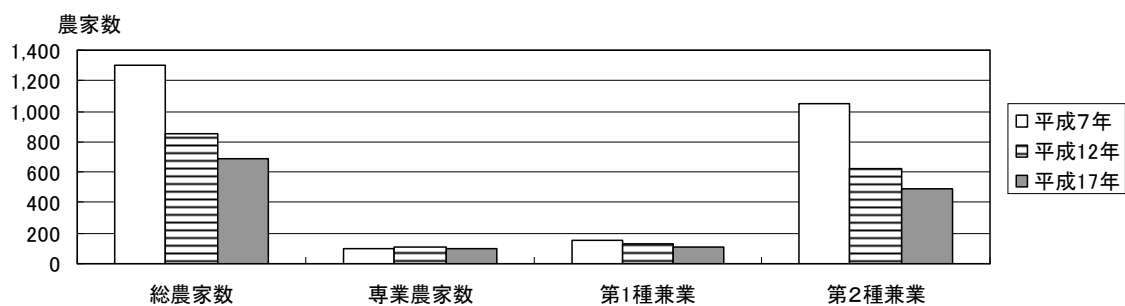


■公園緑地配置図

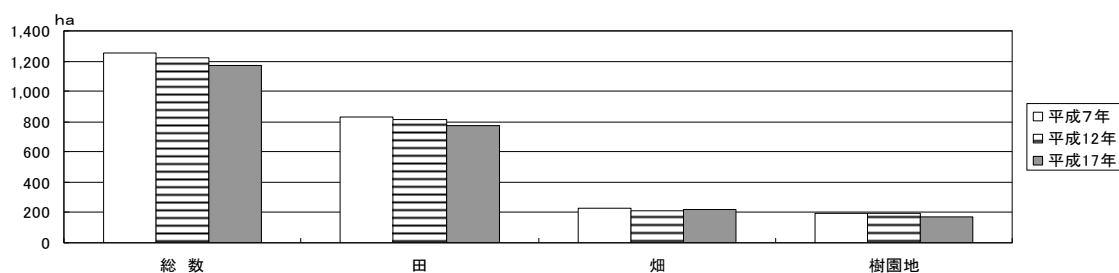
3-1-5. 産業動向

(1) 農業

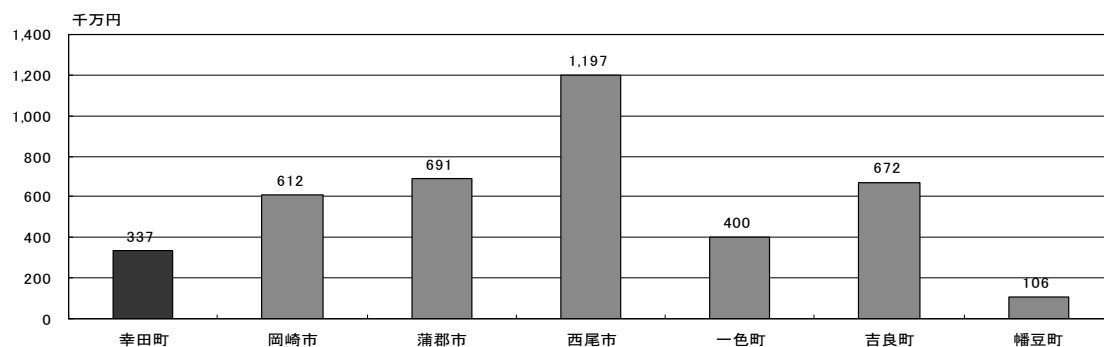
- ・農家数の減少、耕地面積の減少など農業は厳しい状況にあります。
- ・近隣市町と比較すると、最も産出額の少ない幡豆町に次ぐ低い産出額となっています。



■農家数の推移



■耕地面積の推移



資料：愛知県統計年鑑（平成19年刊）

■近隣市町の農業産出額の比較（平成17年）

(2) 工業

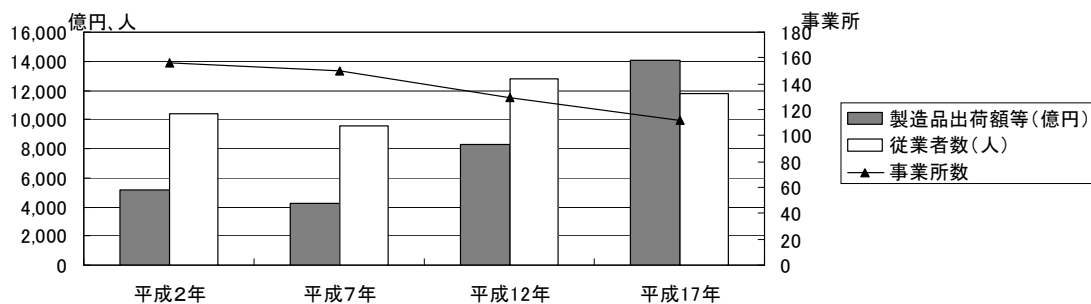
- ・本町の工業は、昭和 40 年代から積極的に進められた優良企業の誘致活動により、著しく発展し、近隣市町では岡崎市に次いで高い製造品出荷額等となっています。
- ・自動車関連産業が主体であり、製造品出荷額等は飛躍的な伸びを示しています。
- ・製造品出荷額等は、平成 18 年において約 1 兆 4,629 億円となっており、うち電気機器、電子部品産業が大きな割合を示しています。
- ・国道 23 号名豊道路や国道 248 号を中心に広域的なアクセス道路が整備されつつあり、物的・人的輸送面で優位な状況になりつつあります。

また、企業の立地が広域道路沿いに立地しているため、その広域交通網ならびに外縁部の工業団地周辺道路では、大型車の混入率が高くなっています。

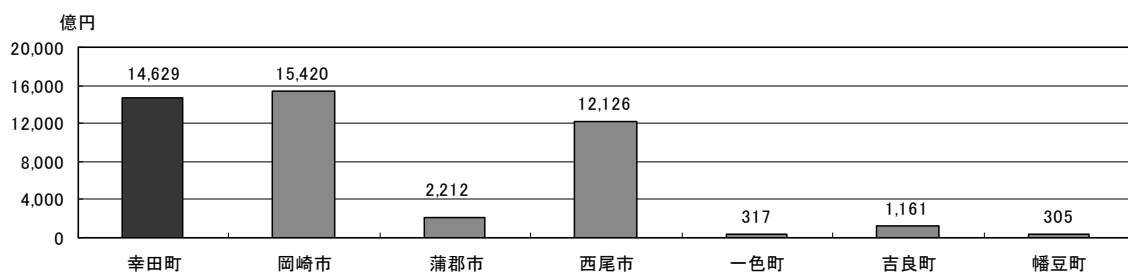
- ・通勤については、電車通勤ならびに自家用車通勤がみられます。

企業によっては、幸田駅からシャトルバスが運行されています。

また、自家用車通勤の車により、朝・夕のピーク時に局所的に渋滞がみられます。



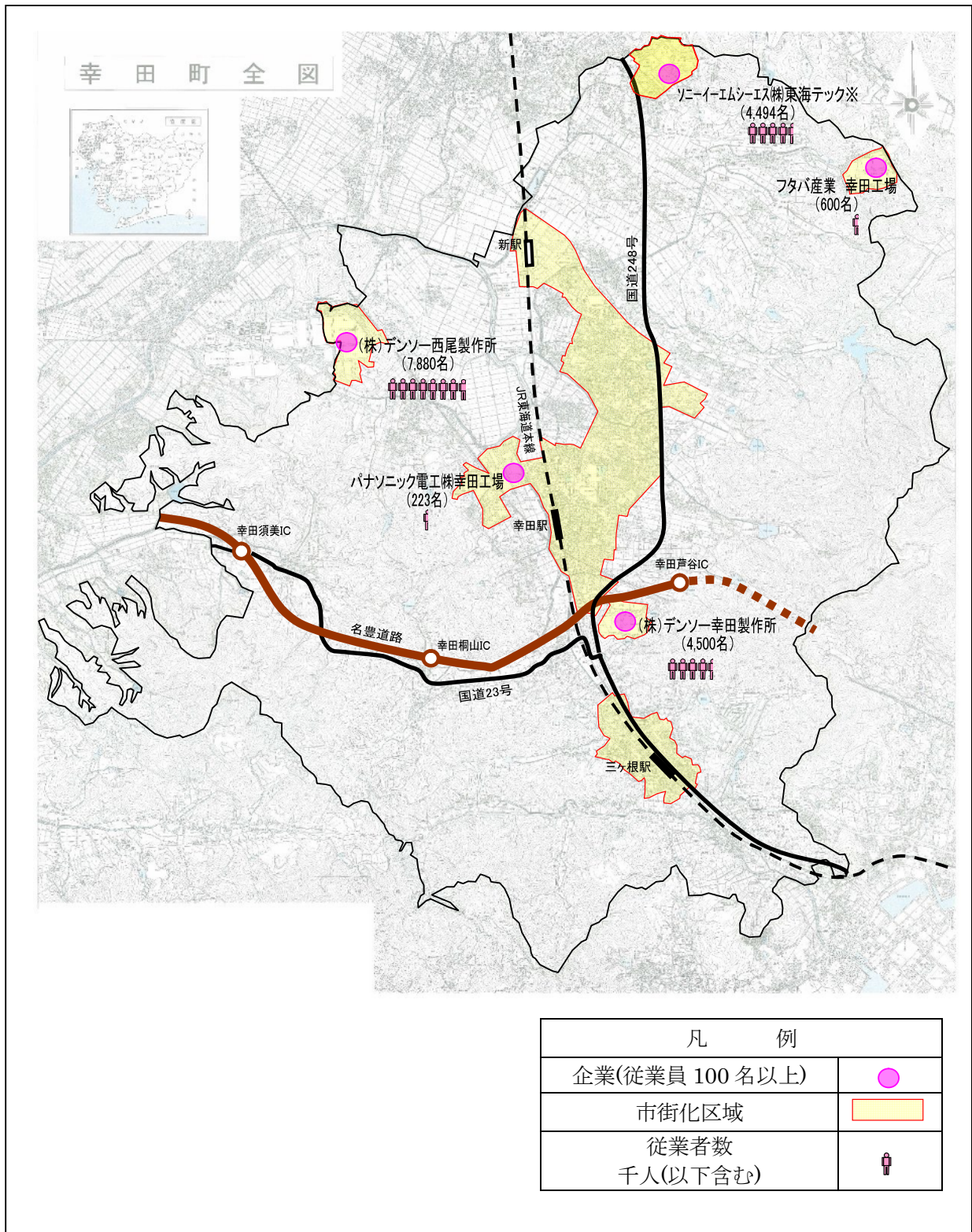
■事業所、従業者数、製造品出荷額等の推移



資料：愛知県統計年鑑（平成 19 年刊）

■近隣市町の製造品出荷額等の比較（平成 18 年）

3. 都市及び都市交通の特性の整理

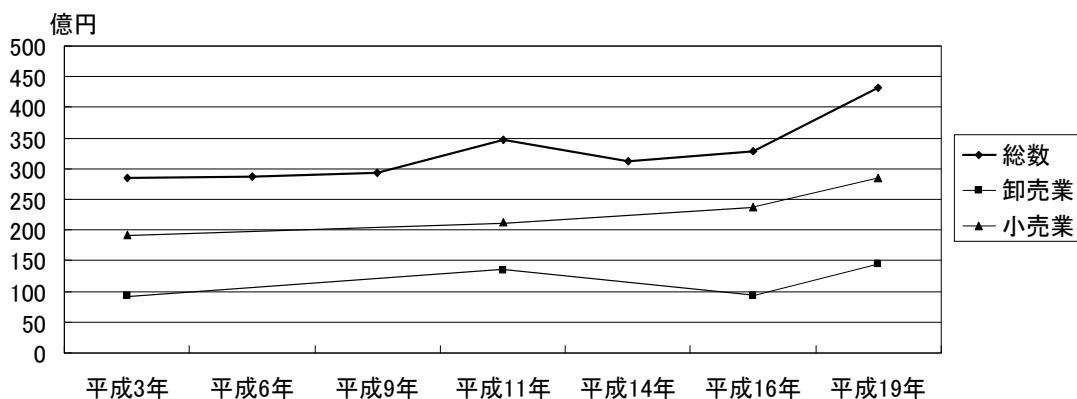


■主な企業の位置図

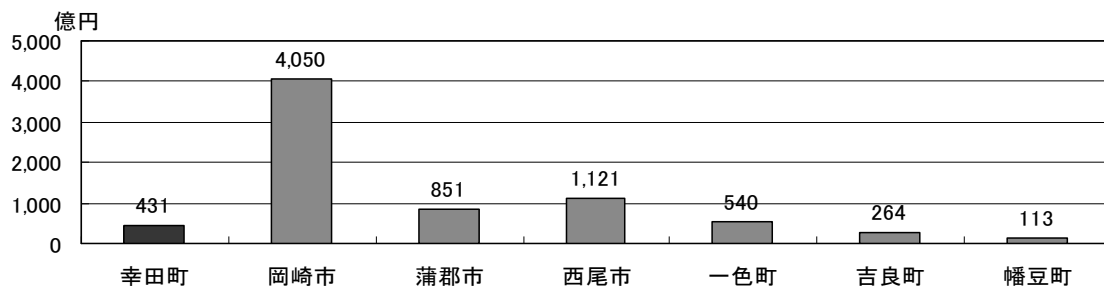
※ソニー・エム・エス株式会社東海テック
平成 21 年 7 月 1 日 幸田テックから東海テックへ名称変更

(3) 商業

- ・本町の商業は、かつて幸田駅前地区が中心であったが、近年のモータリゼーションの進展、郊外型大型店の進出、消費者のライフスタイルの変化やニーズの多様化といった様々な社会情勢の変化に伴い、本町における状況も変化しています。
- ・近年では、国道 248 号沿道等を中心に沿道型店舗の立地が進んでいます。
- ・また、相見土地区画整理地区内には、“カメラガーデン幸田”としてホームセンターや飲食店が立地するなど、商業施設の拠点集積がみられ、休日には局所的に渋滞がみられます。今後も新たな商業施設の立地が計画されていることから、周辺道路への影響などアクセスについて配慮する必要があります。



■年間商品販売額の推移

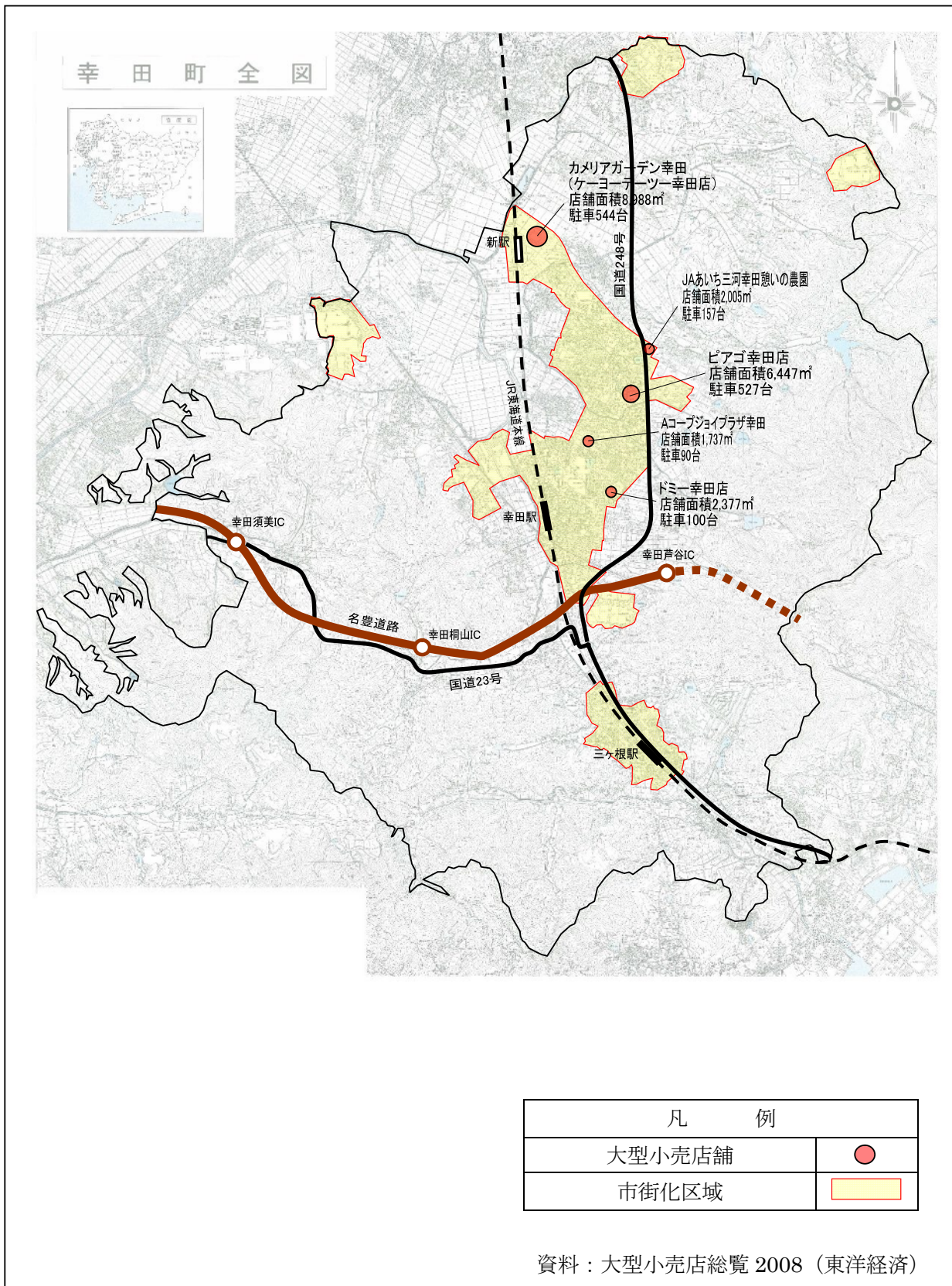


■近隣市町の年間商品販売額の比較 (平成 19 年商業統計調査)

■大型小売店舗の立地状況

名 称	店舗面積	核店舗と面積	備 考
カメラガーデン幸田 (ケーヨーデーツー幸田店)	8,988 m ²	ケーヨー	・DIY関連用品、家庭用品 ・駐車場 544 台
ピアゴ幸田店 (旧ユーストア)	6,447 m ²	ピアゴ 4,812 m ²	・食品、家庭用品、衣料品 ・駐車場 527 台
ドミー幸田店	2,377 m ²	ドミー 2,021 m ²	・食品、家庭用品 ・駐車場 100 台
J A あいち三河幸田憩いの農園	2,005 m ²	あいち三河農業協同組合 2,005 m ²	・食品スーパー、家庭用品 ・駐車場 157 台
A コープジョイプラザ幸田	1,737 m ²	あいち三河農業協同組合 1,737 m ²	・食品、家庭用品 ・駐車場 90 台

資料：大型小売店総覧 2008 (東洋経済)



■大型小売店舗の位置図

(4) 観光

- ・本町の観光施設として、傑出したものはないものの豊かな自然と歴史的な史跡に恵まれています。
- ・主な観光資源（イベント、施設）としては、以下のものがあり、特にイベント時には局所的に交通混雑が起きています。

■主要な観光資源と入り込み客数の推移(1)

単位(人)

観光資源名<イベント>	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
幸田しだれ桜まつり 地元保存会が育てた 350 本の枝垂桜を始めとした 500 本の桜を背景に野点や、短歌俳句コンクールなどが楽しめる。	90,500	92,000	103,000	80,500	96,000
こうた夏まつり 幸田町の夏の風物詩・こうた夏まつりのフィナーレを飾る花火大会。色とりどりの打ち上げ花火約 100 発が幸田町の夜空を美しく彩る。	30,000	18,000	28,000	30,000	30,000
こうた風揚げまつり 10 畳もの大凧や奇抜なデザインの凧など、100 点以上の凧が新春の抜けるような青空に舞い上がる。町内の凧愛好家のみならず、全国各地の凧の会会員の参加を得て、にぎやかに開催される。	7,000	10,000	10,000	13,000	5,000
幸田彦左祭り 天下のご意見番として知られている郷土の英雄「大久保彦左衛門」や時代劇でおなじみの「一心太助」らに扮した各コミュニティや町内の企業の人々が、幸田駅前通りを練り歩く。	23,000	30,000	13,000	30,000	28,000

資料：観光レクリエーション利用者統計

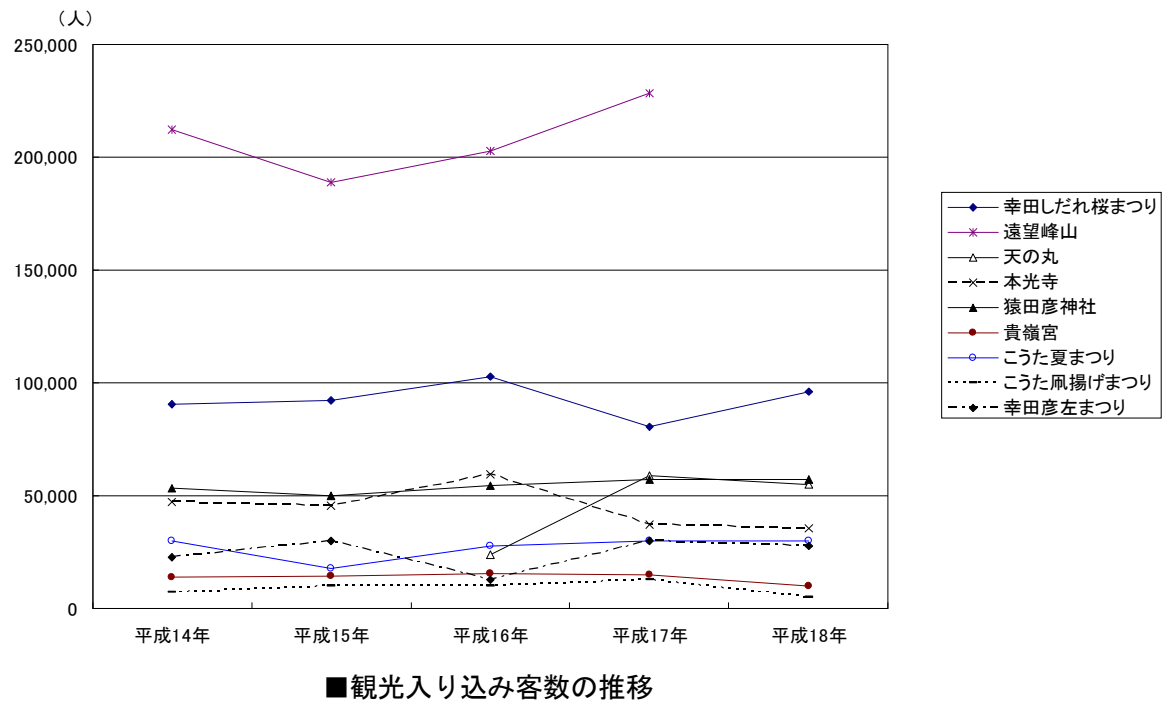
3. 都市及び都市交通の特性の整理

■主要な観光資源と入り込み客数の推移(2)

単位(人)

観光資源名<観光施設>	平成 14 年	平成 15 年	平成 16 年	平成 17 年	平成 18 年
遠望峰山 幸田町で一番高い山であり、標高は 439m。山頂まで自動車で行くことができる。三河湾国定公園内に「幸田町健康の道」がある。	212,187	188,867	203,043	228,060	—
本光寺 JR 東海道線三ヶ根駅東方 300m にあり、正式名称は曹洞宗瑞雲山本光寺という。本光寺は、別名『あじさい寺』と呼ばれ、山門までの両脇や、境内にたくさんのおじさいが植えられ 6 月には見事な花を咲かせる。	47,014	45,760	59,605	36,993	35,645
猿田彦神社 周辺は三河湾国定公園にも指定され、大井乃滝、水上ゴルフ練習場など訪れる人も多い。	53,400	49,900	54,200	57,300	57,200
貴嶺宮 「山陰神道」の本宮。明治以来、神道が国家神道に統一されて行く歴史の波の中で、昭和 47 年に浜名湖畔に仮宮を建立し 25 年後この地に移った。参拝者のため、広い駐車場が用意されている。	13,860	14,640	15,450	15,120	10,240

資料：観光レクリエーション利用者統計



3. 都市及び都市交通の特性の整理

